

杉並区気候区民会議の実施報告について

杉並区気候区民会議の開催について、以下のとおり報告します。

1 実施概要

気候変動対策について、無作為抽出により選出した77名の区民が有識者等から情報提供を受けて議論を重ねる気候区民会議を令和6年3月から8月まで全6回開催した。

今後、気候区民会議により提出された気候変動対策に関する意見提案について、その趣旨を踏まえて事業化等を検討する。

2 気候区民会議の開催内容

	日時	主な内容	会場	参加数
第1回	3月20日(水・祝) 9時～12時	有識者等からの情報提供	区役所 会議室	68名
第2回	4月20日(土) 13時30分～17時30分			67名
第3回	5月18日(土) 13時30分～16時30分	情報提供の内容を基に各 テーマに分かれてグルー プワーク、 意見提案の作成		58名
第4回	6月8日(土) 13時30分～16時30分			52名
第5回	7月6日(土) 13時30分～16時30分			52名
第6回	8月3日(土) 13時30分～16時30分	全体発表、振り返り		53名

※会議で議論するテーマは、杉並区地球温暖化対策実行計画の施策体系を参考に「エネルギー」、「循環型社会」、「みどり」、「交通」とした。

※第2回の会議開催前に希望者により杉並清掃工場の見学を実施した。

3 意見提案の内容

別紙のとおり

4 意見提案に対する事業化等の検討

意見提案について、気候危機対策推進本部により組織横断的に検討を進めて事業化等の方針を決定し、令和7年3月開催予定のシンポジウムにおいて区の対応等を報告する。

5 今後のスケジュール（予定）

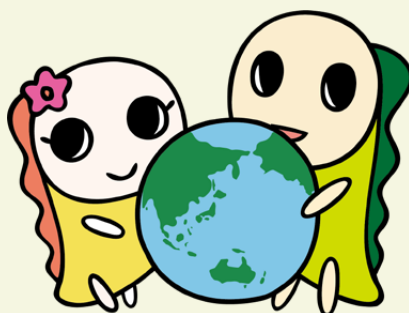
令和7年 2月 都市環境委員会へ報告

3月 シンポジウム開催

意見提案に対する対応を公表

杉並区 SUGINAMI CITIZENS' 気候区民会議 CLIMATE ASSEMBLY

ゼロカーボンシティ杉並の実現に向けた
意見提案



2024年8月

目次

1	はじめに	1
	杉並区気候区民会議とは？	1
2	全体方針とめざす姿	2
	全体方針	2
	杉並区のめざす姿	4
3	テーマ別の意見提案	6
	意見提案一覧	7
	エネルギー	9
	循環型社会	19
	みどり	28
	交通	37
4	参考	46
	杉並区気候区民会議の歩み	46
	杉並区気候区民会議を通じて得た気づき	48

杉並区気候区民会議 第2回 テーマ別に詳しく学ぼう



杉並区気候区民会議とは？

杉並区気候区民会議は、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、無作為抽出で選ばれた様々な年代の区民が気候変動対策に関して有識者等から情報提供を受けながら、議論を重ねる会議です。

全6回の議論を通じて、杉並区気候区民会議として大切だと考える「全体方針」、2050年までに実現したい杉並区の「めざす姿」、その実現に向けて多様な主体が連携しながら実施すべきテーマ別（「エネルギー」、「循環型社会」、「みどり」、「交通」）の取組をまとめ、杉並区へ提出しました。

今後、杉並区ではこの意見提案の趣旨を踏まえ、事業化等に向けて検討していく予定です。

➤ 会議の歩みについては、p.46をチェック！



2

全体方針とめざす姿

全体方針

杉並区気候区民会議の全6回にわたる学習および熟議を通じて、気候変動の現状や影響について理解を深めることができ、その深刻さに危機感や不安を感じました。気候変動による影響を少しでも和らげ、杉並区に暮らし続けられるよう、意見提案全体に共通する考え方として「全体方針」を作成しました。

私たち杉並区気候区民会議は、ゼロカーボンシティ杉並の実現に向けて本提案の取組内容を推進していく上で、以下の「全体方針」を大切にすることを、杉並区をはじめ、推進に関わる全ての主体に呼びかけることを提案します。

方針1 個人の我慢ではなく、 社会を大きく変える仕組みを考える

個人の行動を変えるためには社会を大きく変える仕組みや制度が必要であり、社会システムの大転換が必要です。私たちは、個人の努力や我慢だけに頼らない、社会全体で変わっていくための取組の推進を求めます。また、社会を大きく変えるためには、新たな技術を効果的に取り入れることも必要であり、小さくても杉並発のイノベーションを生み出していくことも大切です。

方針2 さまざまな主体が連携し、チカラを出し合う

気候変動は全ての人に関わる問題であり、「区民」、「事業者」、「杉並区（行政）」など、単体で達成できることに限りがあることから、様々な立場や分野の主体が連携しあうことが必要です。また、他の地域と協力し、それぞれの得意分野を生かすことで、杉並区が一つの自治体としてできることの幅を広げていくことができます。

方針3 みどりや自然を大切にする

杉並区の豊かなみどりや自然は、区民の暮らしに欠かせない存在です。「人」だけを中心に考えるのではなく、植物・動物・川などのみどりや自然を守り、共存していくことが重要です。



方針4 多様な世代が学び合い、 将来世代に負担をかけない行動をとる

気候変動問題は、現代世代による行動によって将来世代に大きな影響をもたらすことが特徴です。私たちは将来世代への負担を減らし、今できることを考え、行動することが必要です。「未来」のために「今」何をすべきかを決める際には、子どもや若者も当事者として参加できる機会を増やすことが欠かせません。

方針5 地域間の不公平を生まない

私たちは、気候変動に対する取組が他の地域で別の問題を起こしている現状を学びました。地球規模で気候変動問題に立ち向かうためにも、杉並区での取組が地域を超えて悪影響を及ぼさないかなど、多様な角度から検討することが重要です。

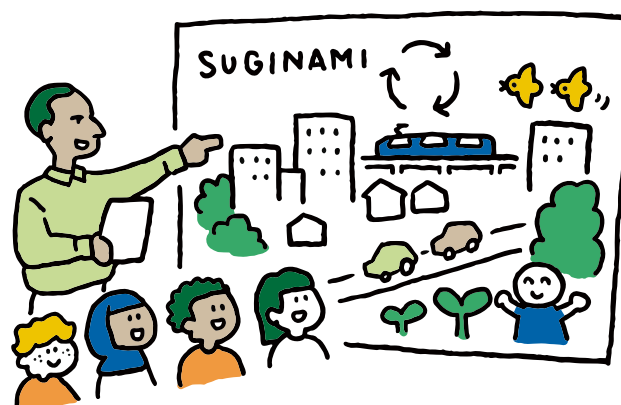
「2050年、気候変動対策を実施した杉並区がこうなったらいいな」

杉並区のめざす姿

2050年までに実現したい、気候変動対策を実施した杉並区の姿を出し合い、分野横断的なめざす姿と、テーマ別のめざす姿に整理しました。意見提案では、これらの「めざす姿」の実現に向けた取組を提案しています。

環境都市として世界のお手本・ モデルになっているまち

キーワード #環境が杉並区のブランド #環境配慮の暮らしが実現できる #都市のモデル #他都市と連携 #日本一の環境区 #幅広い参加・周知



高い環境意識が受け継がれ、 行動力のある区民が育つまち

キーワード #社会を変える行動力のある区民 #高い環境意識 #次世代に受け継ぐ #全区民が知っている #前向きな議論を杉並の文化に



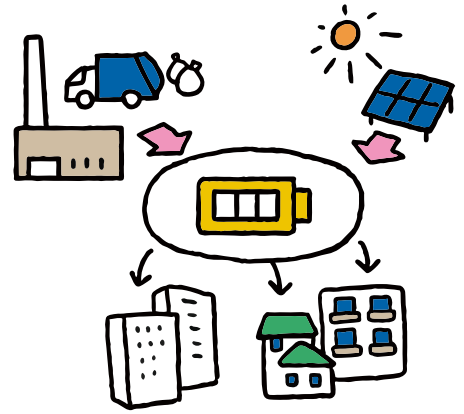
快適で豊かな脱炭素の 暮らしを実現できるまち

キーワード #継続できる取組 #気候変動対策がお得に #商店街活性・コミュニティ・健康にもプラス #自然体で無理なく #暮らしが豊か #脱炭素だからこそ全員が快適 #脱炭素以外のメリットも

エネルギー

杉並区でエネルギーをつくり、
区内でエネルギーをまかなっているまち

キーワード #省エネと再エネは一緒に進める #杉並区内でつくる #区内でまかなう #今あるものを守りながら進める #交流・近隣自治体と連携



循環型社会

ごみの排出量が最も少なく、
暮らしに関わる全てのものが杉並区内で
完結する循環システムのあるまち

キーワード #ごみ排出最少 #ゼロウェイスト #区内で完結 #循環システム #リサイクル率 No.1 #アップサイクルで新たに生み出す



みどり

質の高い豊かなみどりを守り、
育んでいるまち

キーワード #他都市がうらやむ #質の高いみどり #豊かな自然 #四季を感じる #交流を育むみどり #愛着の持てるみどり #人と自然に隔たりがない #生き物も人もコンフォータブル #多様性



交通

だれもが環境にやさしい手段で
移動したくなる、多様なモビリティが
共存できるまち

キーワード #歩きたくなる #自転車に乗りたくなる #楽しい #だれもが安心できる道しかない #モビリティと人が共存 #ストレスなく移動 #環境が整っている #みどりと掛け算



3

テーマ別の意見提案

2050年までに「めざす姿」の実現に向けて、杉並区として実施すべき気候変動に対する取組として、以下の4つのテーマごとに、33の取組を提案します。

4つのテーマについて取組を提案します

気候変動に関わる分野を大きく4つに分けて、取組を検討しました。

エネルギー

循環型社会

みどり

交通

意見提案の読み方

エネルギー 達成したいことは？ 家庭での太陽光発電の普及率を10倍にする

取組 01 再エネを近所の人たちとみんなで安心して導入できるようにする

取組の内容

各家庭や集合住宅（分譲・賃貸）で太陽光発電を導入する際の精神的ハードルを乗り越えるために、個人で導入を検討するだけでなく、エリア単位でまとめて情報交換しながら、導入検討を推進できる仕組みをつくる。

取組の意義は？／なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区には住宅が多く、町会等の地域のコミュニティがしっかりしているため、各家庭での太陽光発電の導入にあたって、地域で気軽に相談しながら検討できる環境が整備しやすい。
- ▶ 太陽光発電の導入に向けて、スケールメリットによる合理性、効率性、事業性を追求することも大切である。
- ▶ 近隣同士の対話によって、太陽光パネル設置による近隣とのトラブルを回避できる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

エリア説明会の共同開催

杉並区 町会

町会や商店街と一緒に導入検討を進める

区民 事業者 専門家

エリア説明会に出席し、商品のPR

エリア説明会に同席し、第三者目録でアドバイス

実現に向けたステップ

step 1 町会や商店街など、モデルエリアを選定する

step 2 エリア説明会を実施し、導入検討を進める

step 3 モデルエリアを深度化するとともに、全区的に展開する

議論したアイデア

- ・ 区のお墨付きの安心できる業者の登録制度や紹介制度を設け、相談窓口も合わせて設置する。
- ・ 太陽光発電を導入したときのシミュレーターをつくり、住宅の耐用年数に合わせて導入費用や回収期間が気軽にシミュレーションできる。
- ・ 簡易的に導入できるペロプスカイトの開発を手伝うために、モデル地区での社会実験や、クラウドファンディングを実施する。

10 杉並区気候区民会議

取組の概要

- ・ テーマ
- ・ 達成したいこと
- ・ 取組のタイトル
- ・ 取組の内容
- ・ 取組の意義は？／なぜ杉並区に必要なの？

進め方のイメージ

- ・ 実現に関わるべき主体
- ・ 実現に向けたステップ
- ・ 議論した具体的なアイデア

エネルギー

p.9 ~ 18

家庭の省エネ・再エネ

1. 再エネを近所の人たちとみんなで安心して導入できるようにする
2. 省エネ・再エネ住宅の推進パッケージをつくる
3. 区民や事業者が協力・連携したくなる「杉並消灯日」を設ける

まちの省エネ・再エネ

4. 床発電や太陽光パネルを公共施設等に設置し、省エネ・再エネに関する啓発を充実させる
5. 区民が参加できるような事業体「杉並電力」により、自分たちでコツコツと積み上げて発電し、再エネを地産地消するまちにする

情報発信

6. 交流自治体や地方と再エネを起点にした相互的な協力体制をつくる
7. 家庭でお得に省エネ・再エネにチャレンジできる情報ポータルを整備する
8. 区民・事業者・杉並区で気候変動対策の取組を考える場を設け、積極的に情報を発信する
9. 化石燃料由来の電力から再エネ由来の電力に切り替えるための情報発信とサービスを提供する



循環型社会

p.19 ~ 27

リデュース

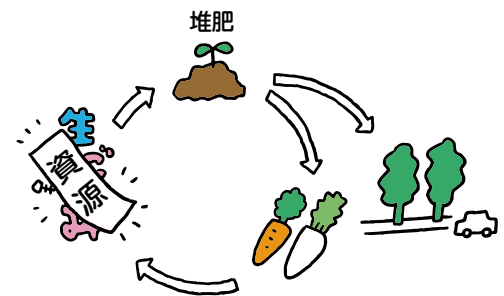
10. 区内のイベント・お祭りで、フードロスやごみの削減につながる取組を行い、区民の環境意識を高める

リユース

11. 杉並循環ラボをつくる
12. 杉並式ごみ可視化システムをつくる
13. 一度使ったものをシェア・リペア・アップサイクルできる拠点を創出し、区民へ普及させる仕組みをつくる
14. 区民が日常的に自分が使っているお気に入りの容器（マイリユース容器）を使うことができる環境を整備する

リサイクル

15. 杉並区内の生ごみを資源化し、杉並モデルの循環システムをつくる
16. リサイクルの細分化を体験し、学べる場や機会をつくる
17. リサイクルについて目に触れる機会をまちの中に増やし、リサイクルしたくなる環境を広める



みどり

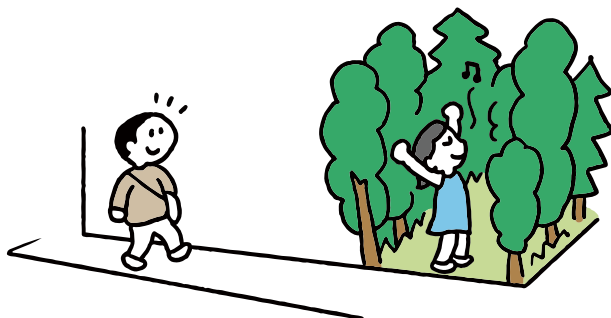
p.28～36

みどりを守り・育てる

18. 樹林しか勝たん！ 私有地のみどりを区民が推し活として守るムーブメント「押し樹林」をつくる
19. みどりのおもてなし 駅周辺や大規模な土地に、杉並の顔となるような良質なみどりをつくり区民と守り育てる
20. お願い「みどり先輩」！ みどりに詳しい区民を増やすために、身近なみどりの専門家とつなぐ「みどり先輩マッチングサービス」を立ち上げる
21. 公共のみどりの整備をきっかけとした、コミュニティや活動の場を創出する

みどりを増やす

22. 歩いて10分森林浴ができる杉並区を実現する
23. 一人で始められるみどりを増やすサポートを充実させる
24. 「わたしが緑を増やさなきゃ」と思える新たなグリーン指標をつくる
25. 緑視率30%の小さなモデルエリアをつくる



交通

p.37～45

車からの転換(個人)

26. 車利用からの転換を推進するため、徒歩や自転車の利用を促進するようなアプリを開発し、便利さ・楽しさを伝える
27. 自動車を使わないことが杉並を楽しむことにつながるポイント制度を設ける

車からの転換(事業者)

28. 車利用から自転車への切り替えを促す事業者の取組にインセンティブをつける
29. 物流で使う自動車を減らすために、商用「車」から商用「X」に変化させる

移動空間の整備

30. 東西の移動だけでなく南北移動も省エネで移動できる選択肢を増やす
31. 区内の移動を快適に！南北を楽しく空でつなぐ
32. 交通結節点を人にやさしく付加価値の高い場にする
33. 四季折々の緑が楽しめる安全安心な移動空間をつくる



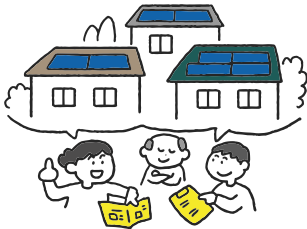
エネルギー

テーマ・意見提案の概要

化石燃料から脱却し、エネルギーを地域でつくって、地域で使うことで、杉並区内の経済の活性化にもつなげていく視点が重要です。住民の暮らしから発生する二酸化炭素の排出量（家庭部門）が多い杉並区では、一人ひとりが生活で使うエネルギーについて見つめ直すことを後押しする仕組みや、まち全体で省エネ・再エネを進める取組を提案します。

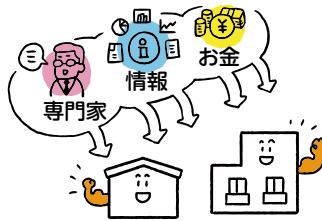
取組 01

再エネを近所の人たちとみんなで安心して導入できるようにする



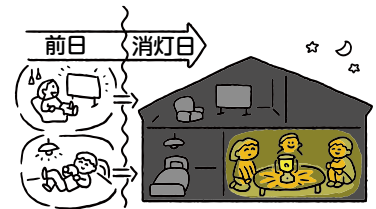
取組 02

省エネ・再エネ住宅の推進パッケージをつくる



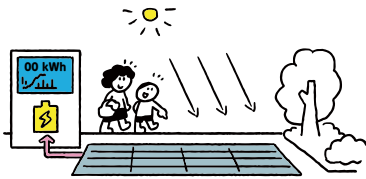
取組 03

区民や事業者が協力・連携したくなる「杉並消灯日」を設ける



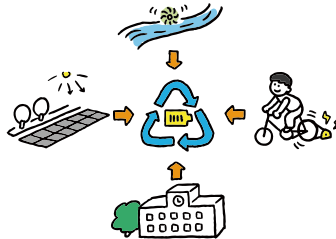
取組 04

床発電や太陽光パネルを公共施設等に設置し、省エネ・再エネに関する啓発を充実させる



取組 05

区民が参加できるような事業体「杉並電力」により、自分たちでコツコツと積み上げて発電し、再エネを地産地消するまちにする



取組 06

交流自治体や地方と再エネを起点にした相互的な協力体制をつくる



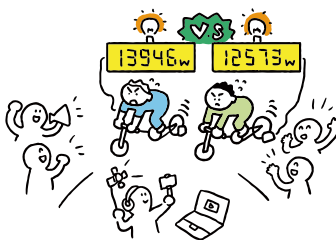
取組 07

家庭でお得に省エネ・再エネにチャレンジできる情報ポータルを整備する



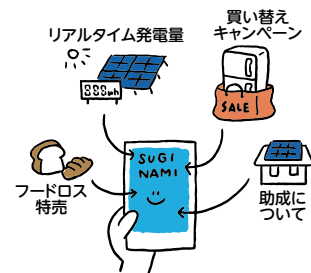
取組 08

区民・事業者・杉並区で気候変動対策の取組を考える場を設け、積極的に情報を発信する



取組 09

化石燃料由来の電力から再エネ由来の電力に切り替えるための情報発信とサービスを提供する



取組 01 再エネを近所の人たちとみんなで 安心して導入できるようにする



取組の内容

各家庭や集合住宅（分譲・賃貸）で太陽光発電を導入する際の精神的なハードルを乗り越えるために、個人で導入を検討するだけでなく、エリア単位でまとめて情報交換しながら、導入検討を推進できる仕組みをつくる。

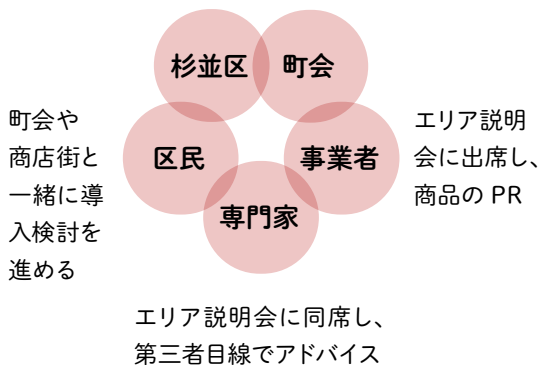
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区には住宅が多く、町会等の地域のコミュニティがしっかりしているため、各家庭での太陽光発電の導入にあたって、地域で気軽に相談しながら検討できる環境が整備しやすい。
- ▶ 太陽光発電の導入に向けて、スケールメリットによる合理性、効率性、事業性を追求することも大切である。
- ▶ 近隣同士の対話によって、太陽光パネル設置による近隣とのトラブルを回避できる。

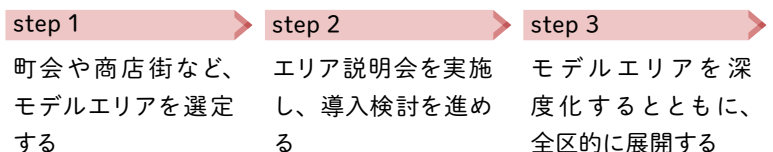
進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

エリア説明会の共同開催



実現に向けたステップ



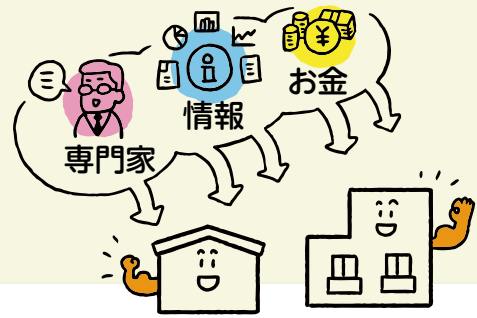
議論したアイデア

- 区のお墨付きの安心できる業者の登録制度や紹介制度を設け、相談窓口も合わせて設置する。
- 太陽光発電を導入したときのシミュレーターをつくり、住宅の耐用年数に合わせて導入費用や回収期間が気軽にシミュレーションできる。
- 簡易的に導入できるペロブスカイトの開発を手伝うために、モデル地区での社会実験や、クラウドファンディングを実施する。

取組

02

省エネ・再エネ住宅の 推進パッケージをつくる



取組の内容

エネルギー効率の良い住宅を増やすには、「正確な情報が得られること」、「専門家による診断やアドバイスがもらえること」、「金銭的な補助があること」が必要であるが、個別に実施するだけでは実現しないため、一連のパッケージとして展開する。

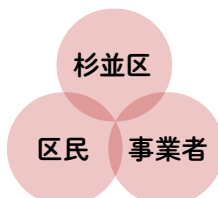
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 温室効果ガス排出量の 52.8% を家庭が占めるため、住宅の多い杉並区が率先して取り組むことで他都市のお手本になる。
- ▶ 一部の情報感度の高い人だけが制度を活用するのではなく、誰でも気軽にワンストップで制度を活用できる仕組みが必要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

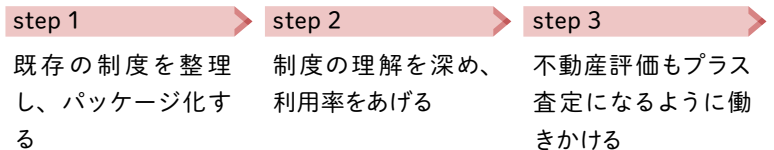
既存の制度を整理してワンストップ
でできるパッケージをつくる



予算に合わせて
選択しながら制度
を利用する

新築・リフォーム
それぞれに、制度
の案内の機会を
つくる

実現に向けたステップ



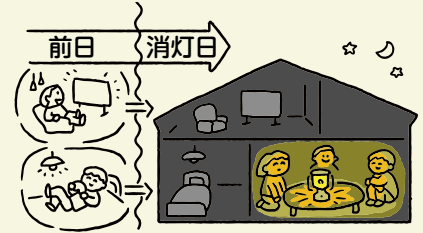
議論したアイデア

- ・ 既存の集合住宅には管理組合等の大規模修繕の項目として、省エネ・再エネに関することを義務化し、補助金の導入やアドバイザーの派遣をする。
- ・ 新築の場合は住宅展示場での案内、リフォームの場合は見学会等を実施してメリットを伝える。
- ・ 社会貢献のブランド力により、ローンの金利が優遇されるなど、不動産評価にもプラスになると良い。
- ・ エネルギー×防災・防犯で様々な側面から住環境を改善できるというメリットを伝える。

取組

03

区民や事業者が協力・連携したくなる「杉並消灯日」を設ける



取組の内容

杉並区が主導しながら地域全体の消灯日を設け、消灯対象エリアや時間枠を設定するなど、それぞれのスタイルで参加しやすいようにする。事業者等には定時退社・営業時間短縮の協力を依頼し、区民には暗がりを楽しむ企画を提案する。また、この取組をより推進させるため、総合震災訓練や各地域の防災訓練と消灯日を掛け合わせることで、停電しても困らずに過ごせる知識も身につけ、地域の防災力を高めながら省エネできる。

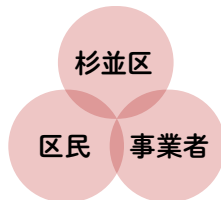
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 都内で実施するからこそ、賑わいと暗がりの対比で新しい杉並の名物になりうるとともに、大企業や商業ビルの少ない住宅地だからこそ実現できる取組である。
- ▶ 気候変動対策と防災を掛け合わせることで、より地域に必要な取組にする。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

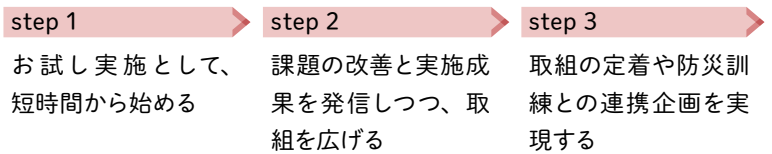
協力者へのヒアリング/データを取りまとめ、情報提供する



地域で実施している防災訓練に消灯を取り入れる

協力していくことから、主体的な活動に転換する

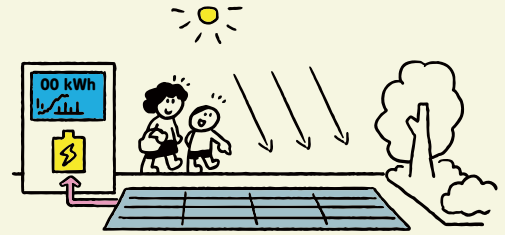
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 暗がりを楽しむ企画として、ホテル観賞や星空観測、デジタルデトックス DAYなどを提案する。
- ・ 消灯日にも安心してまちを歩けるように、街灯などの明かりはつけるほか、有事の際にも逃げ込める防犯協力店を設ける。
- ・ 地域全体の消灯を実施しているときと実施していないときを数値化し、メリット・デメリットの整理をする。
- ・ 「省エネ」×「防災」のモデルとなる取組にする。
- ・ 時間になると地域に放送が流れ、音で消灯時間がわかるようにする。
- ・ 夜に犬の首輪に灯りをつけた散歩を促し、防犯パトロールを兼ねてもらう。

取組 **04** 床発電や太陽光パネルを公共施設等に設置し、省エネ・再エネに関する啓発を充実させる



取組の内容

日常的に利用する駅などの公共交通機関や、区の庁舎などの公共施設に床発電・太陽光パネルを導入し、発電量やその効果の見える化をする。関心のない区民も無意識のうちに省エネ・再エネの取組を目にすることができ、関心のある区民はより理解を深めることができる。また、多くの杉並区民が手にする「ごみの分別冊子」などに気候変動対策や防災等の取組を紹介することで、啓発を推進させる。

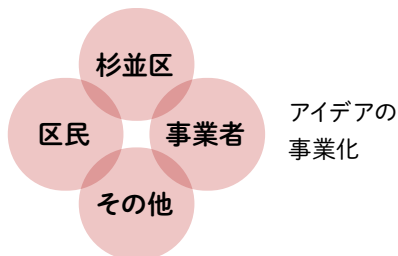
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 区内でエネルギーをつくり、化石由来のエネルギーから転換することができるようになる。
- ▶ 省エネ・再エネを日常生活の中で見える化し、一人でも多くの区民に啓発する。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

第一走者になる、協力事業者に補助金を出す仕組みなど



大学や事業者が新しい発電について研究する

実現に向けたステップ

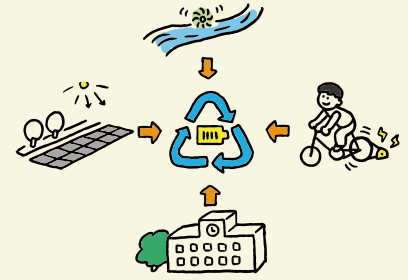
- step 1 → まずは区施設に設置し、啓発する
- step 2 → ごみの分別冊子などに気候変動対策や防災等の情報を掲載する
- step 3 → 事業者の参加を増やしていく

議論したアイデア

- ・ 床発電や太陽光パネルの発電量や効果、目標値を公共施設や駅、観光地などに掲示板パネルで見える化する。
- ・ アプリをつくり、区全体でどのくらい省エネできたか区民が確認できるようにする。その日の目標を達成したらポイントがもらえるようにすると参加する動機になる。
- ・ 日常の中に様々な発電を取り入れる。

取組
05

区民が参加できるような事業者「杉並電力」により、自分たちでコツコツと積み上げて発電し、再エネを地産地消するまちなにする



取組の内容

住宅、事業所、公共施設での太陽光発電や蓄電設備の整備、ごみなどの廃棄物を有効に生かす新しい技術の導入や、健康づくりと組み合わせた自転車サイクル発電のワークスペース設置など、まちなかのあらゆる資源を生かして再エネによる発電を広げていく。また、つくったエネルギーのプロセスを見える化して取組のPRを行い、再エネ推進に区民が参加できるような事業者「杉並電力」をつくってさまざまな事業を展開する。

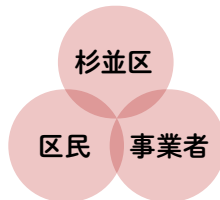
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 住宅都市である杉並区は多くの人口を抱え、エネルギーも食料も消費する一方であるが、そのことが他都市の環境破壊につながらないように努力するべきである。
- ▶ 遠くのまちで発電された電力だけに頼ると、災害時には供給されない恐れがある。
- ▶ 電気料金の削減や電力の安定化につながるというメリットもある。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

再生エネルギー課をつくり、杉並電力（事業者）、事業会社の設立を担う



家庭に太陽光パネルをつける、自転車をこぐ、ごみの再資源化に協力する、杉並電力に出資する

太陽光パネルをつける、社内に電力発電室をつくり自転車で発電する（ガラス張り・パネル表示）

実現に向けたステップ

- | step 1 | step 2 | step 3 |
|--|--------------|----------------------------------|
| 区に再生エネルギー課をつくり、「杉並電力」を立ち上げて、再エネ状況の見える化など情報発信する | イベントや事業を試行する | 事業推進部隊として「杉並電力」を本格的に立ち上げ、事業を展開する |

議論したアイデア

- ・ 戸建て・集合住宅、事業所の屋根、道路や公共施設などで再エネ発電を広げて町単位で電力を地産地消し、災害にも備える。
- ・ 民間事業者の社屋内のジムで、自転車をこいで楽しみながら健康づくりとエネルギーの創出を行う。また、河川での小水力・路上に設置した小型風力での発電や家庭ごみを今以上に分別してバイオマス発電を増やし、プールや区内公共施設、家庭でも使う。
- ・ 杉並区役所の再生エネルギー課で、実施したことがすぐに見えるように見える化する。
- ・ 区全体の再エネ発電量を取りまとめ、再エネの取組を推進する「杉並電力」を設立（開設）する。

取組 06 交流自治体や地方と再エネを 起点にした相互的な協力体制 をつくる



取組の内容

再エネを起点にした協力体制を構築し、交流自治体産電力（再エネ電力）を主軸に再エネ切り替えを進める。交流自治体とは電力の連携に加え、区立小学校での給食食材の調達、自然体験教育、健康増進など教育・文化・人的な交流を持つ。

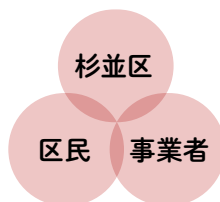
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 再エネ電力の供給を安定的に確保する必要があるが、区内の再エネ発電量は限られているため、他都市から調達する必要がある。
- ▶ 区内での自家発電設備、蓄電には限界がある。
- ▶ 自然の少ない都市の住民にとって、自然とのふれあいや自然教育機会の創出、区民の健康増進などさまざまな面で豊かさをもたらす。
- ▶ 世田谷区、練馬区などに挟まれた杉並区は住宅都市として「選ばれる」ために、魅力や活力を生み出さなければならないので、このような特徴ある取組から区民の教育、緑、豊かで美味しい食生活など生活の質の充実を図ることが重要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

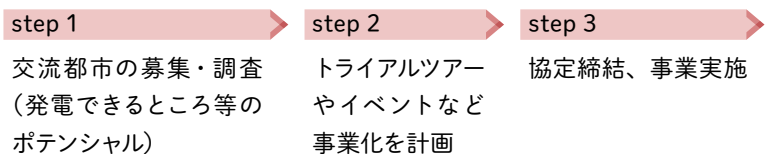
主導的に動く



参加や購買、市民
レベルでの交流

小売チェーン、さまざまな
流通において交流都市産
物の取り引き協力

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 食材、木材などを区内スーパー、飲食店、小売業に優先仕入れし、区民一人ひとりが購入して協力するとともに、伝統行事や風土などの相互理解を深める。
- ・ 災害時に備えて自己託送電力を一定量確保する必要がある。区外で土地や海洋資源を提供してもらい区の発電設備を設置できることが理想。都市住民が電力供給地の歴史や文化を尊重して、様々な交流を深めることで、感謝と一体感を持った関係を築く。

取組 07 家庭でお得に省エネ・再エネに チャレンジできる情報ポータル を整備する



取組の内容

ウェブサイトや SNS 等の区が運営している既存のメディアを活用しながら、各家庭やエリアにおけるエネルギーに関する情報を集約するとともに、各家庭でお得に、楽しく、自主的に省エネ・再エネアクションを起こしやすくする情報を発信する。

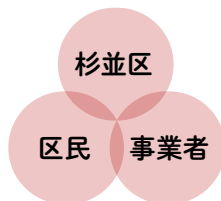
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 温室効果ガス排出量の 52.8% を家庭が占めるため、住宅の多い杉並区が率先して取り組むことで他都市のお手本になる。
- ▶ 家庭における省エネ・再エネに関する取組は、何を選び、実践すれば良いかわからないため、正確な情報が必要である。
- ▶ 行政が公益性のあるデータに基づく情報を発信することで、安心して家庭で取り組むことができる。
- ▶ 実際にアクションを起こすためには、モチベーションを高める工夫が必要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

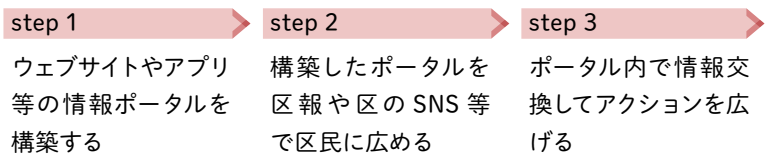
自前のメディアで情報ポータルを整え、正確な情報を発信



正しい情報を得ながら自分たちでアクションを広げる

見やすく楽しさを感じるデザインやコンテンツの制作を行う

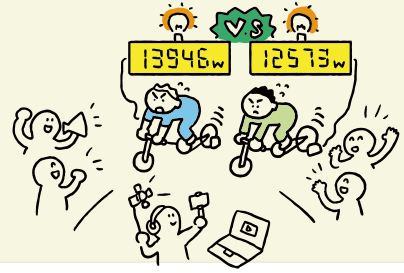
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 家庭やエリアのエネルギー情報が集約され、使用量の把握やシミュレーション、お得情報の確認などができる。
- ・ インセンティブやゲームミッションなど、家族で楽しく省エネ・再エネ導入のチャレンジができる。
- ・ AI を活用して、省エネ・再エネに関するアドバイスや質問に答えてくれるようなシステムをつくる。
- ・ アニメ・ゲーム×気候変動は世界でも関心の高い分野なので、世界にも発信する。
- ・ SNS、プラットフォーム内で共有されたアイデアの中から実際にマネしたくなるようなアクションが情報交換できる仕組みをつくる。

取組 08 区民・事業者・杉並区で気候変動 対策の取組を考える場を設け、 積極的に情報を発信する



取組の内容

杉並区主催による地域対抗の自家発電運動会などの楽しく省エネできる催しや、今後の気候変動対策の取組をみんなで考える場として区民会議を継続させることで、気候変動対策に関する認知度を高め、学びの機会をつくる。また、気候変動対策に取り組む他都市と相互に情報交換・協議する場として、事例見学を含む合同会議を開催する。それらを杉並区内外に向けて積極的に情報発信することで、“エコ杉並”のブランドを築く。

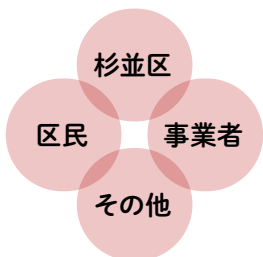
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 楽しく気候変動への取組ができ、若い世代が暮らしたいまちにすることで人口減少を防ぐ。
- ▶ 民間主催だと営利目的のように感じて参加しにくいいため、杉並区が主体になることで、取組を多くの人に知ってもらうことができる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

開催のサポート、情報発信、
他地域との連携



区民・事業者・杉並区で
実行委員会を組成

グッズ制作
イベント時に
協力する

実現に向けたステップ

- | | | | | | |
|-----------------|---|------------------------------|---|-----------------------------|---|
| step 1 | ▶ | step 2 | ▶ | step 3 | ▶ |
| 気候区民会議を
継続する | | YouTube 等で
成果も課題も
発信する | | 他都市と一緒に合同会議を
開催し情報交換等を行う | |

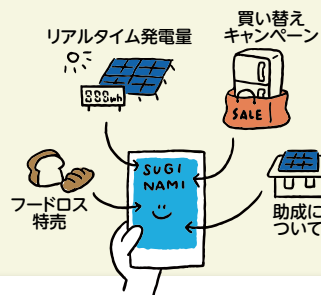
議論したアイデア

- ・ エコな取組の認知度を上げたり、発電する体験などができたりするような区民が参加したくなる楽しい催しを行う。
- ・ 事業者や個人、杉並区の取組を報告、紹介をする。
- ・ 杉並区公式の YouTube チャンネルから、取組を紹介する。
- ・ 合同会議では区民も参加・出張できるようにし、他地域の事例やエリア特性を知る機会を創出する。
- ・ 企業とコラボレーションしたおしゃれなグッズをつくる。
- ・ グッズにも活動紹介をつけて情報を発信する。

取組

09

化石燃料由来の電力から再エネ由来の電力に切り替えるための情報発信とサービスを提供する



取組の内容

再エネへの切り替えを後押しするサイトやアプリ「杉並区アプリ」を開発。区役所内のウォーターサーバーの使用量、区内の再エネ率、区内での再エネ発電量などのほか、区の再エネ促進施策をまとめて発信する。

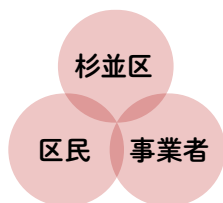
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 区の再エネ導入の助成などについて、まとめてわかるサイトやスマートフォンなどで簡単に情報にアクセスするサービスがない。そのため、関心があっても導入できない人が多い。
- ▶ インセンティブとともに、生活情報や区のサービスとも連動したサイトやアプリをつくり、関連情報を見られるようなサービスにすることで、導入する人も増える。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

杉並区アプリをつくる、再エネ導入のインセンティブを整備する



アプリをダウンロードして、制度を利用して再エネに切り替える

アプリに掲載するお得な情報やサービスを提供する

実現に向けたステップ

- step 1 「杉並区アプリ」を開発する
- step 2 再エネ導入のインセンティブ、情報・サービスを充実させる
- step 3 インセンティブの活用促進を働きかける

議論したアイデア

- ・「再エネに切り替えない未来がどうなるか」を、数値化など可視化して広く知らせる。個人も会社も例外なく再エネに切り替えて使おう！つくろう！と呼びかける。
- ・区民がまとめて切り替えるとお得になる料金体系などの仕組み、インセンティブをつくる。
- ・杉並区アプリで再エネ促進関連情報サービスを発信する。アプリはLINE、Facebook、Xなどと連携し、周知する。会社ぐるみで導入、飲食店などとダウンロードキャンペーンを打つ。
- ・フードロス、フードレスキュー、再エネと省エネ関係のお得な区の制度を掲載し、区民の生活に必要な確定申告、選挙投票、安否情報など区役所関係のサービス機能を持たせる。

循環型社会

テーマ・意見提案の概要

循環型社会の実現は、将来世代に負担をかけない持続可能な暮らしにつながります。個人の生活の中で少しずつ取り組むことも大切な一方で、私たちが使うモノがつくられる過程から変えていくことが大切であり、事業者や行政のチカラが欠かせません。そのため様々な主体が連携して、仕組みを変えていくための積極的な取組を提案します。

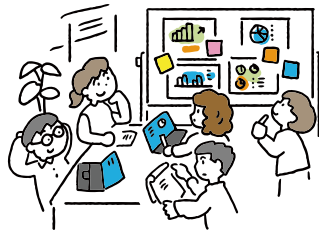
取組 10

区内のイベント・お祭りで、フードロスやごみの削減につながる取組を行い、区民の環境意識を高める



取組 11

杉並循環ラボをつくる



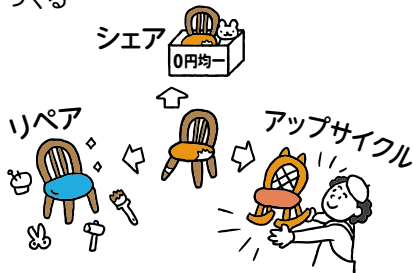
取組 12

杉並式ごみ可視化システムをつくる



取組 13

一度使ったものをシェア・リペア・アップサイクルできる拠点を創出し、区民へ普及させる仕組みをつくる



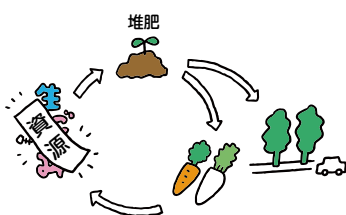
取組 14

区民が日常的に自分が使っているお気に入りの容器（マイリユース容器）を使うことができる環境を整備する



取組 15

杉並区内の生ごみを資源化し、杉並モデルの循環システムをつくる



取組 16

リサイクルの細分化を体験し、学べる場や機会をつくる



取組 17

リサイクルについて目に触れる機会をまちの中に増やし、リサイクルしたくなる環境を広める



取組 10 区内のイベント・お祭りで、フードロスやごみの削減につながる取組を行い、区民の環境意識を高める



取組の内容

区内で開催されるイベントやお祭りの会場のごみを減らすために、リサイクル可能な食品容器の使用を促すマニュアルを作成し、ごみ・フードロス削減の体験ブースなどを設置する。区民が集まるハレの場だからこそ、その連帯感と楽しさを、ごみ・フードロス削減の意識向上につなげる。

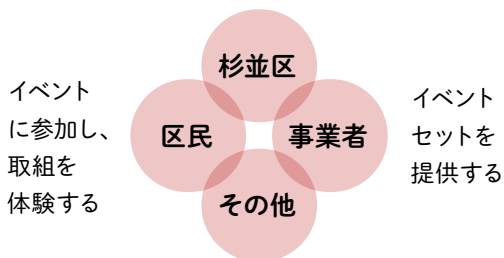
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 区内ではイベントやお祭りが多数開催されており、多くの区民が訪れるため、ごみ・フードロス削減の普及啓発の場として活用することができる。
- ▶ イベントやお祭りの開催には、飲食店やイベント運営などを行う事業者・行政が協力しており、ごみ・フードロス削減の取組への協力を得る機会にすることができる。
- ▶ イベントやお祭りの会場では、使い捨ての容器を使用していることが多いため、再利用できるものに変えるなどの工夫をすることで、ごみの削減につながる効果が期待できる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

イベントセットとマニュアルの作成、活用した主催者への助成



イベント主催者や出店者がイベントセットとマニュアルを活用する

実現に向けたステップ

- | | | | | |
|----------------------------|---|---------------------|---|------------------|
| step 1 | → | step 2 | → | step 3 |
| イベントセットとマニュアルを企画し、テスト・制作する | | イベント関係者に説明し、協力を依頼する | | 主催者が実際のイベントで活用する |

議論したアイデア

- ・ デポジット式でリサイクル可能なお皿・コップ・はし等をセットにした「ごみゼロ式イベントセット」を、主催者や出店者がマニュアル通りに利用できるようにして、負担なく活用できる仕組みにする。
- ・ ごみ・フードロス削減を楽しく体験できるブースを設ける。
- ・ 公共空間やイベントで使える、開催しやすくするモジュール式屋台をつくり、貸し出す。
- ・ 区は、主催者の活用を支援する。

取組

11

杉並循環ラボをつくる



取組の内容

事業者が生活者のニーズに応じたサービスや商品を区民と共に開発・展開する、循環型社会をテーマにしたリビングラボをつくる。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

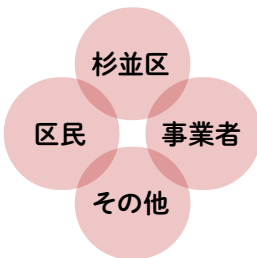
- ▶ 杉並区は住宅地が多く、住んでいる人の意見を集めることで、効果的な取組を行うことができる。
- ▶ 意見やデータを提供する形で関わる区民を増やすことができ、学びと体験の機会を通じて、区民一人ひとりのごみに関する意識を変えることができる。
- ▶ 区民の意見やデータをもとに、事業者が循環型ビジネスのアイデアを実現していくことができる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

データ収集と取りまとめをする、
場所の提供と助成金を検討する

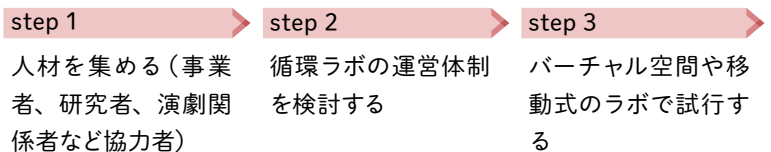
困りごとや
意見のあ
る区民が
データを
提供する



研究者や区内劇場関係者、学校などが連携して、講座やワークショップを開催する

循環型ビジネスのアイデア実現を目指す事業者を募集する

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- 事業者や研究者が興味を持つような、生活者の意見やデータを集める。
- 生活者目線の意見から事業者や研究者が次世代のビジネスアイデアを生み出し、さらに杉並区で実行していくことで、区民の関心が集まる。
- 子どもも大人も、多くの区民が循環型ビジネスに興味を持つように、学びと体験の機会をつくる。

取組 12 杉並式ごみ可視化システムをつくる



取組の内容

自分がどれだけごみを出しているのかを可視化するアプリをつくり、各家庭のごみ削減につなげる。さらに、区内のどの場所にどんな種類のごみがどれだけあるか、データをマップ上で可視化できるシステムを運用し、ごみ収集の効率化を図るとともに、事業者も含めて情報を共有することで、ごみを廃棄物ではなく資源として活用するしくみをつくる。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

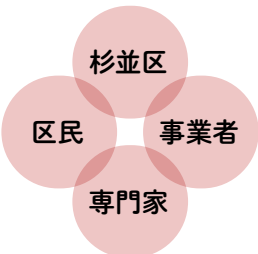
- ▶ 区民一人ひとりが出すごみが見える化し減らす工夫をすることで、区全体のごみの削減につながる。
- ▶ 区内のごみについて、どの場所にどれくらい存在していて排出されているのかが把握されていないことから、データにより可視化することで、資源としての活用が期待できる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

他の取組と連動できるようなアプリと管理システムを検討する

アプリを活用してごみを削減する



可視化されたごみを資源として活用する

アプリ開発、ごみ管理システム開発

実現に向けたステップ

- | step 1 | step 2 | step 3 |
|----------------------------|------------------|-----------------|
| 区民や事業者が活用しやすいアプリとシステムを検討する | アプリとシステムの実証実験をする | アプリの活用方法を広く周知する |

議論したアイデア

- ・ 家計簿アプリのようなごみの排出量を記録できるアプリをつかって、スキャン機能でごみの種類や量を簡単に登録できるようにする。
- ・ 「ごみ管理活用システム」では、捨てたごみだけではなく捨てたいごみもマップ上に表示し、別の個人や事業者が資源として活用できるようにする（その人にとってはごみでも、別の人や事業者にとっては資源）。
- ・ アプリ利用者には、ごみを減らす tips（ヒントやアドバイス）を提供し、ポイント制も検討する。

13 取組

一度使ったものをシェア・リペア・アップサイクルできる拠点を創出し、 区民へ普及させる仕組みをつくる



取組の内容

区民、区内の事業者、アーティスト、学生などとコラボレーションし、一度使ったものをシェア・リペア・アップサイクルできる拠点「RE プレイス」をつくる。また、区民同士でモノを交換する日「0円均一 DAY」や区主催のフリーマーケットを設けるなど、一度使ったモノをシェアする仕組みをつくる。

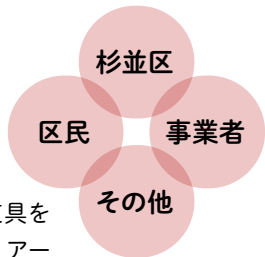
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区にはアーティストがたくさんいるので、まずは区内のアーティストとコラボレーションし、アートに興味や関心がある区民や他の地域の方を巻き込みながら取り組むことができる。
- ▶ 区民同士で一度使ったものをシェアする取組「0円均一」はすでに一部地域で行っている取組なので、すぐに取り組むことができる。
- ▶ 使わなくなったものを区民同士でシェアすることで、近隣で顔の見える関係性や地域コミュニティ形成のきっかけになる。
- ▶ 新しいイベントを開催せずとも既存の杉並区のイベント（阿佐谷七夕まつり、高円寺びっくり大道芸など）が活用できる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

町会・自治会・民間事業者と
連携して取組を支援する

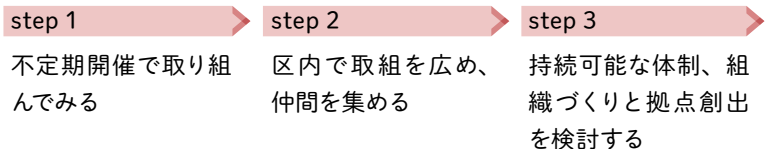


暮らしの道具を持ち寄る、アートや修理に興味関心のある人と連携する、小学校やゆうゆう館など既に取り組んでいるコミュニティと連携する

すでに修理を生業としている事業者、区内のアーティスト

世界中のアーティストとの
コラボレーション

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ アーティスト、学生、事業者などとコラボレーションしてアップサイクル製品をつくる。アートに興味関心のある次世代の育成につなげる。
- ・ 拠点において取組 14 で使用できるリユース容器も制作する。
- ・ 広報紙や新聞広告を活用し、世代別に普及キャンペーンを実施する。
- ・ 年に2回「0円均一 DAY」を設定し、家の軒先に不用品を出して、モノが交換・循環できるようにする。
- ・ フリーマーケットの出展者は区民限定にする。

取組

14

区民が日常的に自分が使っている
お気に入りの容器（マイリユース容器）
を使うことができる環境を整備する



取組の内容

普段使っているマイバックのように、使い捨て容器を使用している飲食店や量り売り店舗、ウォーターサーバーなどで自分のお気に入りの容器（マイリユース容器）を使用できる環境を整備する。実験的に商店街などで区民が日常的にマイリユース容器を使うことができる場所を徐々に増やしていき、使い捨て容器を使用しない「杉並区リユースストリート」を実現する。

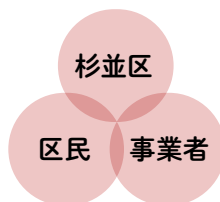
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 空き店舗の多い商店街の地域課題を解決するきっかけになる。
- ▶ 杉並区民全員が使い捨ての容器を使わなくなるとごみ削減へのインパクトが大きい。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

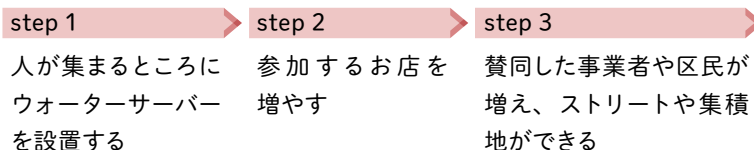
衛生上の専門的な指摘や
相談を行う



商店街の個人商店
と連携する

商店街店舗・商業系事業者：
リユース容器の使用を可能
にする、量り売りを導入する
公共交通系事業者：
停留所や駅にウォーター
サーバーの設置を検討

実現に向けたステップ

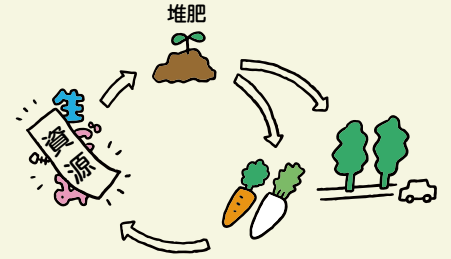


議論したアイデア

- ・ 杉並区内で活性化を図りたい商店街と協働で取り組み、商店街活性化の一助になるようにする。
- ・ リユースボトルの利用促進のため、ウォーターサーバーを人がよく集まる場所に設置する。
- ・ 杉並区内の飲食店などリユース容器を使ってもらえるところには店舗内利用を働きかける。
- ・ 将来的には量り売りで購入できる商品を大企業ともコラボレーションしてラインナップを増やしつつ、杉並区内でしか量り売りで購入できないオリジナルの商品をつくり、他地域にもPRする。

取組
15

杉並区内の生ごみを資源化し、
杉並モデルの循環システムをつくる



取組の内容

家庭や飲食店から排出される生ごみを回収し、環境負荷の少ない方法で資源化する。堆肥や土に生まれ変わった資源は、区内の公園の植栽や街路樹などの公共空間や区民農園などの緑化推進に活用する。

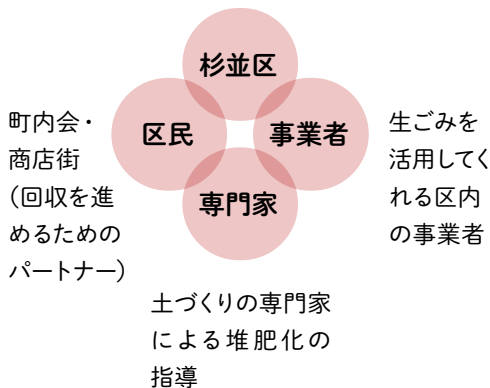
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区の可燃ごみの3割が生ごみ・食品由来であり、生ごみを資源化することで可燃ごみを削減することができ、脱炭素への効果大きい。
- ▶ 区は「家庭用生ごみ処理機」の導入支援を行っているが、追加のエネルギー消費を必要とすることや可燃ごみとして捨てる家庭が多いことが課題である。生ごみを「資源」として捉え、本質的に脱炭素や資源循環を実現していく必要がある。
- ▶ 生ごみの資源化は毎日の「食」という観点から身近に感じられ、誰でも取り組める。また、住宅が多い杉並だからこそ、生ごみの資源化の仕組みを連帯して実現できる可能性がある。
- ▶ 脱炭素と両輪で、杉並区の豊かなみどりを守り育てていくためには、化石由来の肥料などに頼らずに、資源化される生ごみを緑化の推進につなげていくことが大事である。

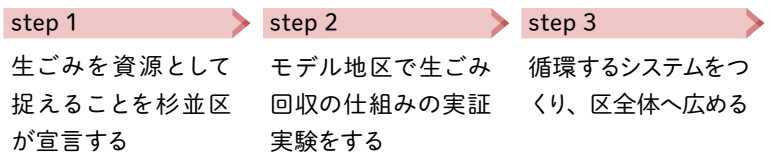
進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

生ごみを「資源」として区分を変更し資源として活用する



実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 土として活用する場合は、区内の緑化活動に生かし、区内でつくった土であることをアピールする。
- ・ 堆肥後の活用の課題については、「キエーロ」などコンポストの量が増えずに分解できる方法なども検討する。
- ・ 土づくりだけに活用するには課題があるため、資源を区内で循環させることを大切に、バイオガスとしての再資源化なども検討する。
- ・ 生ごみを回収するにはコストや環境負荷を増やさない方法を検討する。

取組
16

リサイクルの細分化を体験し、
学べる場や機会をつくる



取組の内容

杉並区の資源回収率を高めるために、公園をはじめとする公共の施設、駅、スーパーなど、日常生活の延長線上でリサイクルできるようにする。また、リサイクルの細分化など、先進的な手法を体験し学べる場をつくることで、区民のリサイクルへの理解も深める。

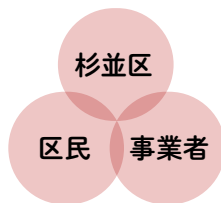
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 家以外のまちの中でリサイクルを実施・体験できる場が少ない。
- ▶ 子どもと一緒にリサイクルを実施・体験しながら教えられる場を増やす。
- ▶ 「体験」をすることで「理解」や「学び」につながり、「日常」「当たり前」になっていくため、まずは体験する機会を増やすことが重要。徳島県上勝町の「HOTEL WHY」のように、リサイクルをはじめとする循環型な生活を、杉並区の日常の中でも体験できるようにする。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

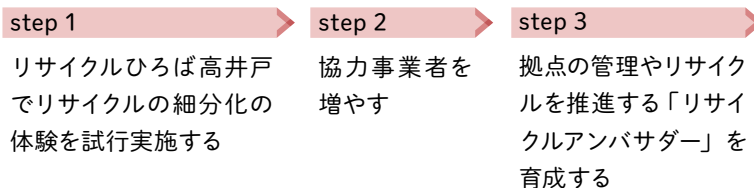
リサイクル拠点としての場の提供



「リサイクルアンバサダー」による拠点の管理支援

駅、スーパーなど、リサイクルの強化に協力してくれる事業者

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ Park-PFIのように公園に併設したカフェなどで生ごみの回収を行うことなどを公園での民間活動の要件にする。
- ・ 3Rで連携しリサイクルに限らず、リユースなどを含めた循環型社会を推進するような場にする。
- ・ 取組13の「REプレイス拠点」や取組14の「杉並区リユーストリート」の店舗などと連携する。
- ・ リサイクル拠点の運営管理をまずは区が行うかもしれないが、継続して広げていくためには、区民や事業者も担う必要がある。そのためにアンバサダーのしくみをつくり、人材を育成する。

取組
17

リサイクルについて目に触れる機会を
まちの中に増やし、リサイクルしたく
なる環境を広める



取組の内容

知らない人・関心がない人を主なターゲットに、駅、学校、まちの掲示板、区のアプリ、ごみ集積所など、日頃から触れるモノや場に、リサイクルの目標や達成状況、ルール、リサイクル後の活用実態など、リアルタイムな情報を発信する。掲載場所や発信方法は、様々な生活スタイルや情報の受け取り方に合わせて効果的な場所や媒体とする。また、ごみ集積所を管理する利用者との連携や情報共有を強化し、正しくリサイクルしたくなる環境を広め、行動変容につなげる。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区の資源回収率は現状 27.7% で都内でも高くなく、都内最高の 50% と比べると低い。現状よりも再資源化を進めるためには、資源回収率 60% 以上を目指す。
- ▶ 資源回収率を上げるには可燃ごみの有料化が効果的だが、23 区で有料化を実現するには時間がかかることから、杉並区では教育や情報発信を通じて認知度や意識を高めることに注力する。
- ▶ ごみ集積所への対応として、区では現在、正しく分別できていないところへの指導を提供しているが、優良事例の共有・展開は行っていないため、工夫や良い取組を広める必要がある。

進め方のイメージ

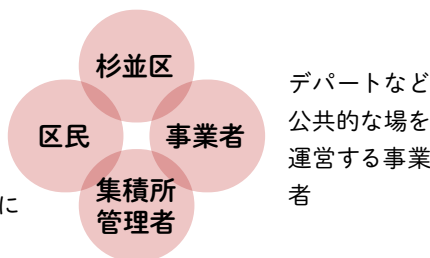
実現に関わるべき主体

公園の掲示板などの区施設での情報発信、ごみ集積所の管理者との連携・情報提供、「なみすけごみ出し達人」の普及

実現に向けたステップ

- | | | | | |
|----------------------------|---|------------------------------|---|-------------------|
| step 1 | → | step 2 | → | step 3 |
| 既存の区のアプリの利用を広めるキャンペーンを実施する | | 日々の資源出しや分別を通じて正しいリサイクル方法を広める | | 優良な集積所を認定し、街中に増やす |

リサイクルに
協力する



マンション・集合住宅の
オーナーや管理者、町会
など

デパートなど
公共的な場を
運営する事業
者

議論したアイデア

- ・リサイクルするメリットや意義を感じる事が行動を変える一つの要因。気候変動対策や資源循環に最も効果的な資源とは何か。リサイクル品として資源がどのように活用されているかを知れると良い。
- ・交番の事故件数のように、まちの見えるところにリサイクル達成率の最新情報を掲示する。
- ・「なみすけのごみ出し達人 (マスター)」を生かす。
- ・優良な集積所を認定して不動産情報などにも記載し、転入者でも正しくリサイクルしやすくする。マップなどに示して取組状況を可視化する。

みどり

テーマ・意見提案の概要

住宅地である杉並区にとって、みどりは大切な地域の資源です。気候変動対策という視点では、酷暑や豪雨が激化する中で、みどりは日陰による暑さの軽減や、グリーンインフラとして雨水を浸透させるといった役割を果たしてくれます。みどりを地域の資源として次世代に受け継ぐためには、適切な維持管理が重要であり、みどりに触れて体感するなど、その大切さを理解する区民を増やして地域全体で守り・育てていく仕組みを提案します。

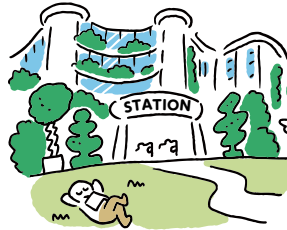
取組 18

樹林しか勝たん！私有地のみどりを区民が推し活として守るムーブメント「推し樹林」をつくる



取組 19

みどりのおもてなし 駅周辺や大規模な土地に、杉並の顔となるような良質なみどりをつくり区民と守り育てる



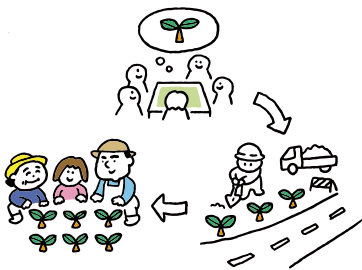
取組 20

お願い「みどり先輩」！みどりに詳しい区民を増やすために、身近なみどりの専門家とつなぐ「みどり先輩マッチングサービス」を立ち上げる



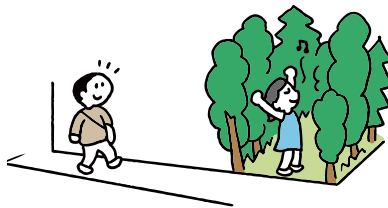
取組 21

公共のみどりの整備をきっかけとした、コミュニティや活動の場を創出する



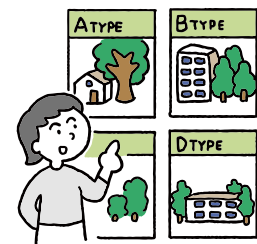
取組 22

歩いて10分森林浴ができる杉並区を実現する



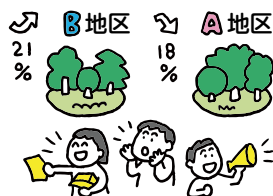
取組 23

一人で始められるみどりを増やすためのサポートを充実させる



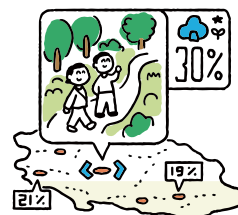
取組 24

「わたしが緑を増やさなきゃ」と思える新たなグリーン指標をつくる



取組 25

緑視率30%の小さなモデルエリアをつくる



取組 18 樹林しか勝たん！ 私有地のみどりを 区民が推し活として守るムーブメント 「推し樹林」をつくる



取組の内容

屋敷林などの私有地の樹林を、所有者に意思確認した上で区民が守りたい「推し樹林」として推薦する。公開イベント（オープンガーデン）などで所有者の想いやストーリーを聞きながら、その魅力をアピールすることで、関心のない人にもみどりの大切さが届くようにする。推薦された樹林は「総選挙」と称して投票を行い、票を多く得た樹林には区・事業者・区民の協働による保全支援が受けられる。また、区民が身近な私有地とつながる機会をつくり、みどり保全活動の輪を広げていく。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

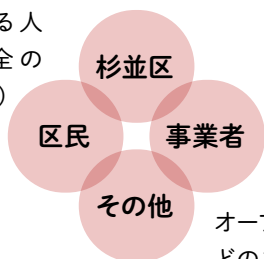
- ▶ 杉並区のみどりの約7割は民有地のものであり、その保全が課題となっており、みどりを大切に思う区民はいても、民有地に関わる機会が多くはないという現状がある。
- ▶ 推し活のような視点で区を上げての大きなムーブメントとして周知、保全活動をプログラム化することで、私有のみどりを保全したいという区民の思いを生かすことができる。
- ▶ 杉並区がアニメのまちであることも生かし、みどりや環境に関心がない層にも届くコンテンツづくりを行うことで、杉並区の文化との相乗効果を目指すことも大切である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

樹林の持ち主、
推し活する人
(樹林保全の
サポーター)

区が主催



区外、海外からも応援できる投票枠をつくり杉並のムーブメントを広く周知する

オープンガーデンなどのコーディネートができる専門家、イベントづくりができる事業者、みどりの保全に関わるNPO、キャラクター制作などができる区内のアニメ制作会社等

実現に向けたステップ

step 1

仕組みの検討、持ち主ヒアリング、協力事業者へのサウンディング(情報収集や検討)

step 2

区有地でモデル実施、仕組みを固める。私有地のみどりの魅力を所有者の想いやストーリーと合わせて広報する

step 3

私有地での実施

議論したアイデア

- ・ 樹木の前のQRコードを読み取ると、推し樹林のストーリーを魅力的に伝える擬人化キャラクターと会うことができ、区内の樹林を回るのが楽しくなるしかけがある。
- ・ アプリなどを通じてキャラクターから日々レスポンスがあることが推し活の継続性を担保する。区内のアニメ制作会社とキャラクターやグッズ制作を通し、持続可能な推し活経済を回すことを模索する(AIを使って日々レスポンスが送られる機能や、区内のみどりを知り回遊につなげる機能など)。
- ・ 募集する時点で所有者がキャラクター化も含めて共感・合意してくれる必要がある。

取組
19

みどりのおもてなし 駅周辺や大規模な土地に、杉並の顔となるような良質なみどりをつくり区民と守り育てる



取組の内容

駅周辺（駅ビルや広場・駅前商店街）や、一定規模以上の民間事業者の敷地などで、杉並区の顔となるような良質な景観を生む緑化を推奨する制度をつくり、貢献した事業者にはインセンティブを提供する。また、創出されたみどりの保全にはアドプト（里親）制度など区民が参加できる仕組みをつくり、区民の意識や行動で杉並のみどりの質を高めていく。

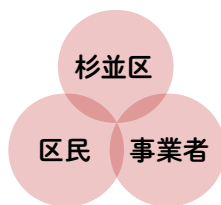
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 駅や事業者の大きな敷地など杉並区の顔になる場所に、豊かで質の高いみどりがあることで、区に訪れた人や区民に、みどりを大切にしている杉並のイメージが共有される。
- ▶ 事業者任せにせずに区民も参加して、みどりで人を迎える「みどりのおもてなし」を実現する。
- ▶ 上記のような顔となるみどりが、現状十分とは言えない。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

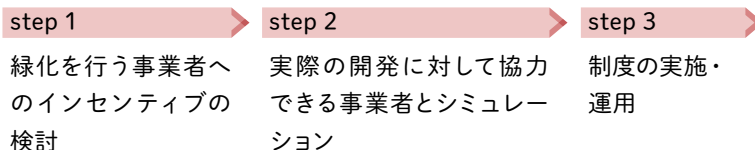
区は制度を運用



アドプト参加者

大企業、商店街
(小規模店舗)

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 緑化義務は既にあるが質に寄与しない現実もあるため、良質な緑化にインセンティブ※を与え質の向上を推進する(※貢献事業者の「みどり割」、事業者のPR、その他優遇措置等)。
- ・ 対象は大規模開発や、街路樹の足元の植栽や公共空間の植樹スペース、商店街は個店単位では緑化スペースが少ないが、店先に置くプランターによる緑化も含める。
- ・ 良質なみどりの定義は、例えば大きさ、樹種(武蔵野の特徴となるシラカシ)、土面の確保など。
- ・ 自宅で育てたみどりを公共空間、商店街の店先に置いてみんなで世話をするなど、区民が関われるスペースがあると良い。

取組
20

お願い「みどり先輩」！ みどりに詳しい区民を増やすために、身近なみどりの専門家とつなぐ「みどり先輩マッチングサービス」を立ち上げる



取組の内容

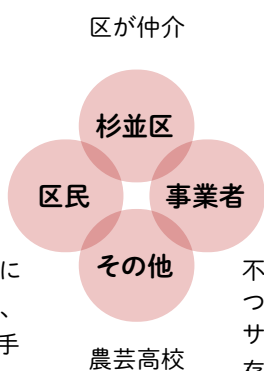
区民が、地域にいる身近なみどりの専門家（＝みどり先輩）とつながることができるマッチングサービスをつくる。地域のみどりをツアーで知る機会や、学習・体験などを通して、自宅はもちろん地域のみどりの保全に関わる力をつけることができる。専門家は、みどりの保全活動等を行う区民、地元の農家や園芸の専門家、東京都立農芸高等学校の生徒などが考えられ、取組を通して専門家もスキルアップにつながる相乗効果が見込まれる。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区には生産緑地も多く残り、農家や園芸関係者、農芸高校など地域の中でみどりに関わる先輩がたくさんいる。
- ▶ みどりのことについて知りたい、学びたいという区民が、身近な地域の中でみどりの先輩とつながることで、みどりのコミュニティやコミュニケーションが生まれるきっかけとなり、地域のみどりの知識や技術が広まり伝承されていくことが必要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体



みどり先輩に登録する人、みどりのお手伝いを希望する人

その他
農芸高校

不要品とニーズをつなぐマッチングサービスなど既存のサービスを運営する事業者と連携できそうであれば区と協定を結んで活用につなげる

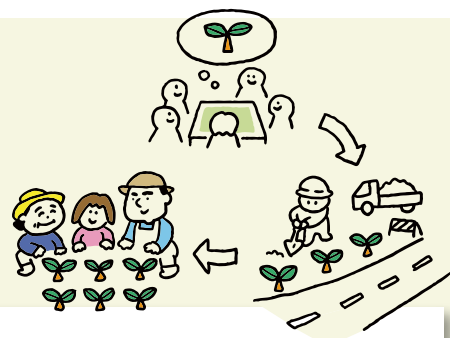
実現に向けたステップ

step 1	step 2	step 3
みどりの保全活動団体や農芸高校、マッチングサービス提供者、既存の仕組みの運営者へのヒアリング	小さいモデル地区を設定しマッチングやアドプト制度の試行実験	仕組みの実装

議論したアイデア

- ・「みどり先輩」は区が募集し、立候補と推薦を受け付け、「できること」や「地域」などをアプリのプロフィールに登録し、みどりのお手伝いの希望者とマッチングする仕組み。高度な技術を持っていない人でも登録でき、不要品とニーズをつなぐマッチングサービスの活用等を想定。
- ・定期的に相談イベントを実施する。
- ・マッチングは無料だけではなく、専門性のある技術に対しては有料の可能性も検討する（園芸に関わる会社がスポンサーになり、インセンティブを生み出すなど）。
- ・取組 18 の「推し樹林」や取組 19 の良質なみどりへのアドプトができる人材の登録制度につなげるといった運用が考えられる。

取組 21 公共のみどりの整備をきっかけとした、コミュニティや活動の場を創出する



取組の内容

公共のみどりは規模が大きいものも多く、心が癒やされ、防災面からも大きな力を持っているなど、区民の暮らしを豊かにする上で大切な要素の1つである。そのため、区が公共のみどりを整備するタイミングに合わせて、区民が自分ごととして関わるることができるコミュニティを組成し、整備後の維持管理や運営の一部を担うなど協働の仕組みづくりを行う。

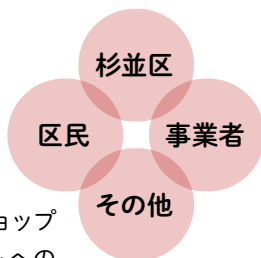
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区は住宅都市であることから暮らしの豊かさが価値そのものであるが、公共のみどりはその規模や性質から、暮らしの豊かさに資する重要な役割を持つ。
- ▶ 公共のみどりは民間の緑と比較して、広くたくさんの人の関わりをつくることができ、区内で希薄化しつつある、コミュニティ創出にも資することができる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

区民参加型のワークショップの
プログラムづくりと庁内部署間連携



ワークショップ
プログラムへの
参加

区外からのワーク
ショッププログラム
への参加

ハード整備を
行う事業者

実現に向けたステップ

- | | | |
|-------------------------------------|----------|----------------------------------|
| step 1 | step 2 | step 3 |
| ワークショッププログラ
ムで、みどりの活用
方法を検討する | みどりを整備する | 整備完了時にコミュ
ニティが生まれ、活
動を継続する |

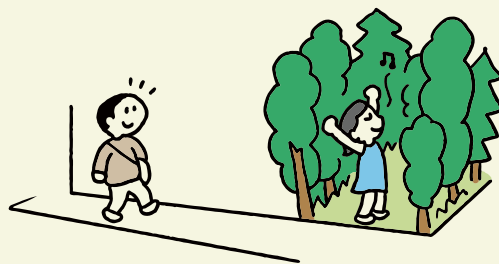
議論したアイデア

- 公共のみどりの整備に区民が関わり、意見が出せる。
- 区民だけではなく、区外からの参加も大切。
- 公共のみどりの整備に合わせたコミュニティ創出のプログラムをつくる。参加によって主体的に公共のみどりに関わる区民を増やす。
- 公共のみどりは街路樹や植栽も含めて幅広く捉える。
- ワークショッププログラムは、生物多様性の視点も加味する。

取組

22

歩いて10分森林浴ができる
杉並区を実現する



取組の内容

空き地・空き家を活用し、森林浴ができるぐらいのボリュームの樹林のような空間を増やす。広さは1坪程度からはじめ、人が気軽に安心して過ごせる樹林地のような空間を、歩いて10分というわかりやすい指標を掲げながら、杉並区内に確保していく。

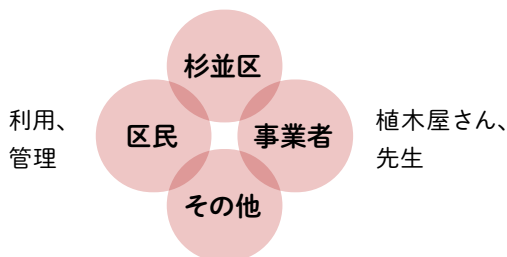
取組の意義は？／なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 未利用地や駐車場などの低利用地を有効に活用する。
- ▶ 徒歩圏内にある学校などにちょっとした緑地をつくり、教育につなげる。
- ▶ 心の豊かさを大事にする区だからこそ、森林浴のような場が大切。
- ▶ 住宅地中心の杉並区として、住んでいる人が満足し、みどりを享受できることが大切である。
- ▶ 「歩いて10分」などの客観的な指標をつくり、みんなのみどりへの関心を高め、取り組みたいと思えるスローガンが必要である。

進め方のイメージ

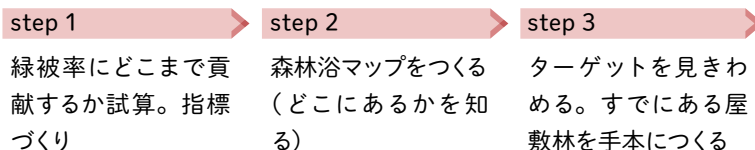
実現に関わるべき主体

全体像を見極めた計画、補助金制度、土地の提供や貸与など地域連携、事業者への義務化など



商店会、街路樹、若手の集まり、コミュニティを通じて、みどりを増やす仲間をつくる

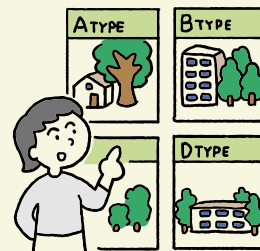
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・地域の課題になっている空き地・空き家の土地を、森林浴できるみどりに転用することで有効活用すると同時に、人が訪れるようにすることで、人の目が増え、地域の安全・安心もアップさせる。
- ・森林浴といっても、一人が樹木に囲まれるような1坪森林浴からスタートさせ、ちょっとしたスペースから始めて、そのスペースが緑被率などに効果があるかも検証する。

取組 23 一人で始められるみどりを増やす サポートを充実させる



取組の内容

持ち家だけでなく、だれもが個人でみどりを増やしたいと思うことのできる「得する」制度を充実させる。緑を増やす方法をパッケージ化し、緑を増やすハードルを下げるほか、パッケージ導入でみどりを増やした住宅としての認定やサポート制度が緑被率アップにどれだけ貢献するのか、わかりやすくする。また、緑を育てるときに「みどりの先輩」などのアドバイスをもらえるためのマッチングサービスや得するノウハウをウェブサイトなどで周知するなど、支援を行う。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 住宅地が多い（民有地7割）が、住宅地の緑被率が低く、特に賃貸マンションの緑被率が低いことが課題になっている。
- ▶ ガーデニングなどを始めても、手入れの仕方を聞くチャンスがホームセンターで購入したときなどに限られてしまっていることが多い。
- ▶ みどりを育てる時に、剪定の仕方や維持管理を自分だけではできない。
- ▶ みどりを増やすための補助金などの支援は、持ち家や事業所などに限られていて、賃貸住宅などはメリットを感じない。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

個人向け、賃貸住宅向けに緑化のパッケージ提示、クーポン等を進呈

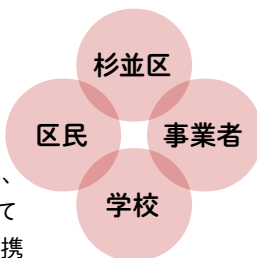
実現に向けたステップ

- | | | |
|--|-------------------------|------------------------|
| step 1 | step 2 | step 3 |
| パイロット事業スタート、効果課題検証、やってみたくなるステキなメニューを整理 | 不動産屋やYouTube等でも展開してPRする | メニューを簡単に比較検討できる仕組みをつくる |

議論したアイデア

- ・ 既存制度だけでなく、緑化している住宅の家主や借主に家賃補助やポイント付与など得する仕組みをつくる。
- ・ やってみたくなる（専門家に杉並らしいものをデザイン）ステキなメニューをアパート版、マンション版、事業所版等つくり、だれもが導入しやすくする。
- ・ ウェブサイトを活用し、専門家とのマッチングやノウハウを気軽に探し、維持管理できるようにする。
- ・ 取組 20 のサポート制度（みどり先輩）を活用し、助けてもらう。

みどりを増やす主体、場合によっては団体と連携



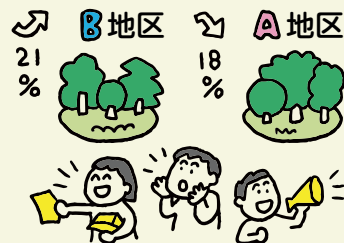
不動産業、グリーン対応マンション認定制度をつくる

みどりの剪定教室を実施（やり方を気軽に見ることができ、相談もしやすくなる）

取組

24

「わたしが緑を増やさなきゃ」と
思える新たなグリーン指標をつくる



取組の内容

みどりを増やすことの必要性を生活者の視点で自分ごととして捉えられるように、新たな緑の指標を設定するほか、クイズや身近な場所での広報などを活用し、みどりに関する目標となっている「緑被率」の認知度を高める。また、区全体の緑被率の数値だけに捉われず、みどりをどこにどれだけ増やすのか具体的な目標を設定することや、目標達成による二酸化炭素削減効果などの指標をわかりやすく示すことで、公共任せにせず、区民一人ひとりがみどりを増やす当事者であることの自覚を促す。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

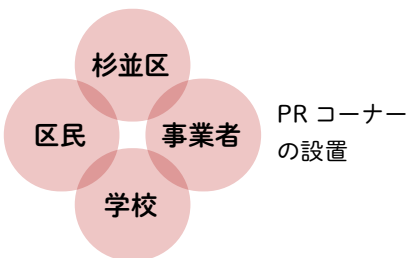
- ▶ 日常生活で、身の回りの緑の現状や将来像を知る機会がほとんどない。
- ▶ みどりの量の指標（緑被率）そのものについて知らない人がほとんどだが、認知度に関する調査もされておらず、数値化されていない。
- ▶ 緑被率を上げるという目標では漠然としてしまい、みどりを増やすことに対して人任せになってしまうため、ブレイクダウンした数値目標とそれによる効果のわかりやすさが必要。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

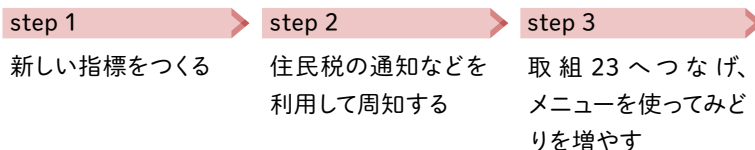
新しい指標の設定、
住民税の通知での周知

みどりを
増やす
当事者で
あることの
自覚をもつ



緑被率や区内のみどりの
実態を教える

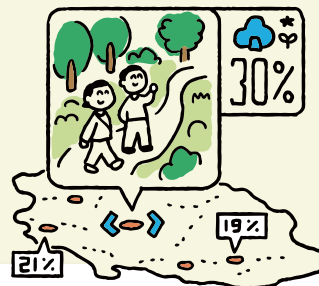
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- 数値目標や現状を町丁目や商店街ごとなどブレイクダウン(具体化)し、身近な場所の緑の現状を把握できるようにする。
- 緑被率そのものが客観的である一方、共感しづらい指標なので、自ら緑を増やそうと感じられる新たな指標を設定する。
- 住民税の通知などを利用して緑被率や新しい指標についてお知らせすることで必ず目にしてもらう。また、税金がみどりを増やす取組にどのように使われているかを理解するきっかけにもする。

取組 25 緑視率 30%の 小さなモデルエリアをつくる



取組の内容

目に見えるみどりが多くあることは、視覚的な癒しや心地よさが高まり、暮らしやすさにもつながるため、緑視率に着目し、それを高めていくための仕組みをつくる。小さなエリアを設定し、エリア内で暮らす区民が主体的に考えて議論し、アクションする場（みどりの協議会など）をつくり、アクションを通じてエリアごとに特色を生かしたみどりを増やすことで、緑視率 30%を達成する。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

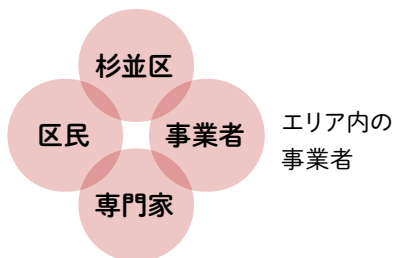
- ▶ 杉並区は住宅都市として生活・暮らしの場所であり、住みやすさや心地よさの観点から過ごす時間を豊かにするみどりや目に見えるみどりが大切である。
- ▶ みどりを増やすことは維持管理のコストが増えることにもつながり、区民が愛着を持ってみどりの維持管理に関わることができる官民連携の仕組みづくりが財政上も重要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

エリア設定、エリアのステイクホルダーへの声掛け、協議会持続のための支援

エリア内に暮らしている区民
町会・自治会



みどりのアドバイザー
(育て方などに詳しい方)

エリア内の事業者

実現に向けたステップ

- | | | |
|------------------------------|---------------------------|-------------------------|
| step 1 | step 2 | step 3 |
| モデルエリアの選定、エリアの緑視率を調査して見える化する | ステイクホルダーに声掛けし、みどりの協議会をつくる | 協議会を軸に、エリアごとにアクションを継続する |

議論したアイデア

- ・身近な生活のみどりを増やすことが大切。
- ・緑視率の地域差をなくしていくことが大切。
- ・アサガオの種の配布など、エリア内で小さく取り組むことができる活動が生まれる仕組みができると良い。
- ・街路や水路のデザインに区民が関わることができる仕組みづくりを行う。
- ・参加した区民がアドバイザーになれる仕組みをつくるなど、参加者のモチベーションを高めることが大切。

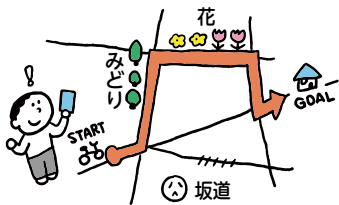
交通

テーマ・意見提案の概要

杉並区内では自転車や徒歩など二酸化炭素の排出量が伴わない手段による移動が多く、排出が伴う移動をさらに減らし、排出量が少ない手段に切り替えていく必要があります。そこで、人と環境にやさしい交通システムを築いていくための仕掛けや仕組みを提案します。

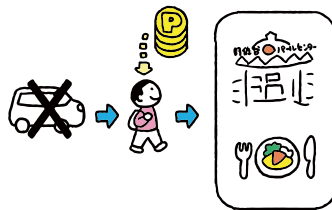
取組 26

車利用からの転換を推進するため、徒歩や自転車の利用を促進するようなアプリを開発し、便利さ・楽しさを伝える



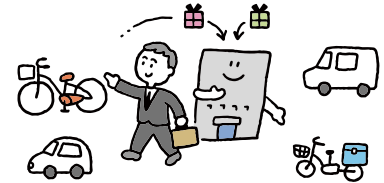
取組 27

自動車を使わないことが杉並を楽しむことにつながるポイント制度を設ける



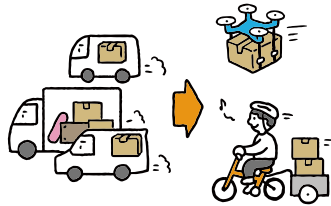
取組 28

車利用から自転車への切り替えを促す事業者の取組にインセンティブをつける



取組 29

物流で使う自動車を減らすために、商用「車」から商用「X」に変化させる



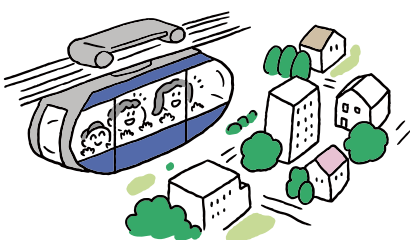
取組 30

東西の移動だけでなく南北移動も省エネで移動できる選択肢を増やす



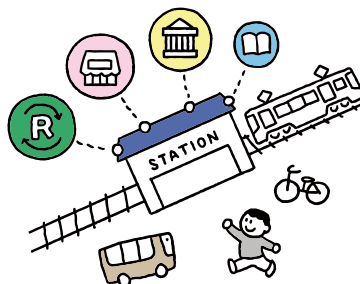
取組 31

区内の移動を快適に!南北を楽しく空でつなぐ



取組 32

交通結節点を人にやさしく付加価値の高い場にする

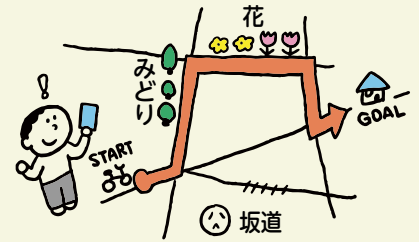


取組 33

四季折々の緑が楽しめる安全安心な移動空間をつくる



取組 26 車利用からの転換を推進するため、 徒歩や自転車の利用を促進するような アプリを開発し、便利さ・楽しさを伝える



取組の内容

自転車で安全に走りやすく、歩いて楽しいルートがマップになっているアプリを開発する。坂道が少ない、木陰が気持ちいいなどの情報がわかり、みどりや歴史、季節の花を感じるルートを選べるなど杉並区らしさを出す。また、高低差のないモードや健脚モードなど、検索条件を変えて探せたり、駐輪場の場所や空き状況も分かたりするようにつくる。

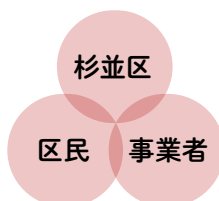
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 自転車は、スピードを出さなくても約5 km 未満の距離では、他の移動手段よりも早く移動できるため、東西・南北の最長が7 km 程度の杉並区内の移動においては、自転車が効率的である。
- ▶ 現状、区民は非常に歩いているが、日本一を目指していくことが大切！気候変動の対策だけではなく、生活習慣病を予防し健康寿命の延伸にもつなげる。
- ▶ 健康で文化的な区民というのは、区のイメージアップにつながる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

徒歩や自転車の利用によって
移動が便利で楽しくなるアプ
リを開発する



アプリへの情報書
き込みで、活性化
につなげる

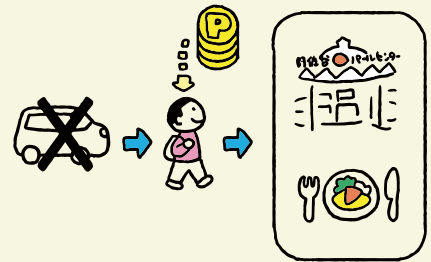
駐輪場やウォー
ターサーバーの
設置など環境を
整える

実現に向けたステップ

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|-----------------------------------|
| step 1 | → | step 2 | → | step 3 |
| 自転車の便利さ、徒
歩の健康増進効果な
どをもっと PR する | | 徒歩や自転車の利用に
よって移動が便利で楽し
くなるアプリを開発する | | 情報を区民が書き
込むなど、アプリの
活性化につなげる |

議論したアイデア

- ・ ウォーターサーバーの設置場所をマップに入れる。
- ・ 木陰や公園など、涼しく休みながら歩ける環境を整える。
- ・ アプリでポイントがたまるようにして、活用を促す(取組 27 の「ポイント制度」と連携できるとよい)。
- ・ 「今こんな花が見頃」、「ここでこんなイベントをやっている」など、区民が書き込むことができ、区内を周遊して楽しいアプリにしていけるとよい。
- ・ 自転車専用レーンなど安全なルートを案内していく。楽しいだけでなく、安全性を高めるように(マイナス面を減らす)。

取組
27自動車を使わないことが杉並を
楽しむことにつながるポイント
制度を設ける

取組の内容

自動車ではないゆっくりとした二酸化炭素排出量の少ない移動手段を選択し、移動距離に応じてポイントが貯まって、お得に感じられる制度を設ける。区内のグルメや商店街、杉並らしい個性的なお店、名所などの紹介や、参加者の交流の場づくり、ポイントを多く集めた人を表彰するなど、自動車を利用しないという行動が杉並を楽しむことにつながるようにする。

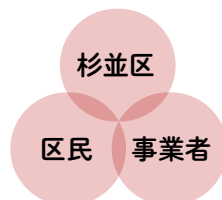
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 区民の行動の規制や制限のようなネガティブな取組ではなく、ポジティブに自動車以外の移動手段を選択したくなるインセンティブを用意することで、区民の行動変容につなげる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

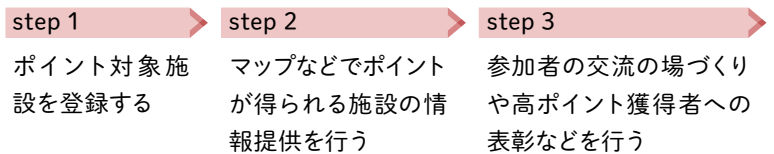
ポイントの制度づくり



ポイント制度への参加

ポイント対象施設としての参加

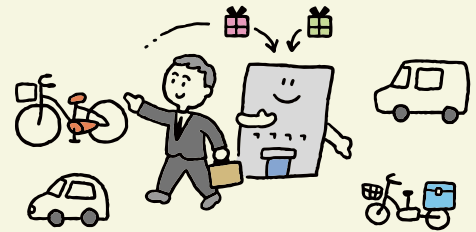
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 自動車以外の交通手段を使うことに対するインセンティブが必要。
- ・ ゆっくりとした移動を楽しむことができる仕組み。
- ・ 杉並区のごグルメや名所、旬の情報をチェックポイントとして掲載したマップを利用し、ポイントを集めながら移動することができる。自動車ではなく徒歩でしか利用できない目的地を設定する。
- ・ 登録されたお店を利用すると、特定のキャラクターを入手できるのも面白い。
- ・ ポイントや表彰などの名誉が得られるとよい。
- ・ ポイント利用者が楽しめるような情報交換の場をネット上に用意する。

取組 28 車利用から自転車への切り替えを 促す事業者の取組にインセンティブを つける



取組の内容

車から自転車通勤に切り替えた社員に対して通勤費を優遇するなど、自転車利用を促す事業者の取組を応援する。あわせて、営業車や配達車・バイクを自転車に切り替えた場合や、駐車を駐輪場に変えた場合などに、区からの補助を検討する。

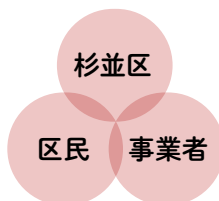
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 現状、区民の一日の自転車利用時間は9.8分で、23区トップであるが、日本一を目指していくことが大切！気候変動の対策だけでなく、生活習慣病を予防し健康寿命の延伸にもつながる。
- ▶ 通勤、業務用の車利用を事業者単位で自転車に転換していくことで、二酸化炭素の排出削減の効果が見込め、事業者としても社員の健康維持増進につながるメリットがある。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

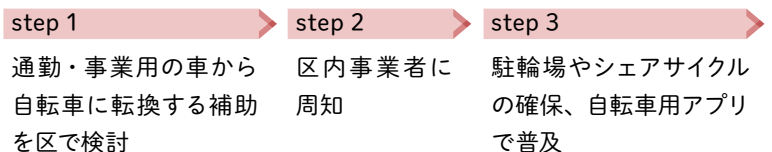
通勤や事業用の車から自転車への切り替えに対し補助など



車通勤の場合、自転車・公共交通への切り替えを検討

通勤や事業用の車から自転車への切り替えを推進

実現に向けたステップ

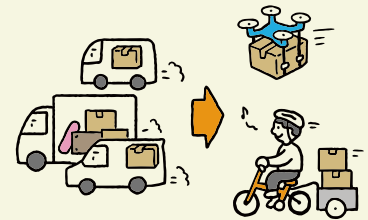


議論したアイデア

- ・ コインパーキングを駐輪場に変えた場合（車1台のスペースで自転車12台が止められる）、事業者にインセンティブをつける。
- ・ 事業者が共同で駐輪場を設け、シェアサイクルを確保する。
- ・ 駐輪場の数を増やし、利用状況をデジタルで可視化する。
- ・ 区は電動アシスト自転車の購入を支援する。
- ・ 安全面から自転車通勤があまり奨励されない面もあるので、ヘルメットをかぶる・法規を守るといった安全性の確保を大切にする。

取組

29

物流で使う自動車を減らすために、
商用「車」から商用「X」に変化させる

取組の内容

物流で利用する自動車を減らすため、配送の効率化や再配達の削減、二酸化炭素の排出権取引の仕組みの導入などを事業者等に促し、自動車以外で業務利用しやすい自転車や電動スクーター、ドローンといった空中輸送などの新しい手段を普及させる。市場からスーパーへの配送といった事業者間の配送も対応できるようにすることで、杉並区内の配送を効率化する。

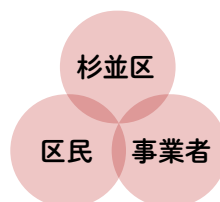
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区の交通についての統計データでは商用車の占める割合が高いため、商用車を減らすことで脱炭素化の効果が見込める。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

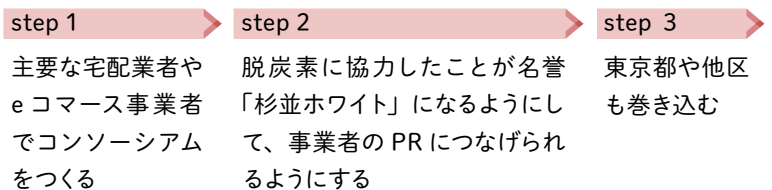
税金を安くする、充電スポットを増やす、二酸化炭素排出権の仕組みづくり



再配達にならない
ように行動する

通信販売会社や配送会社による自転車や電動スクーターなど配達の効率化の推進、二酸化炭素排出権の取引

実現に向けたステップ

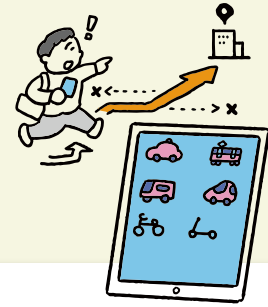


議論したアイデア

- ・ 商用「X」は自転車でも電動スクーターでも良い。
- ・ B to B の配送も対応できるようにしたい。
- ・ 個人で乗用車を使って買い物するより、効率的に配送するネットスーパーを利用したほうが、自動車移動が少なくなるようにする。
- ・ 自転車フレンドリープロジェクトとして、物流の労働環境の向上やエコ通勤も対象にする。
- ・ 配達時に在宅かどうかの通知、不在時の置き配の促進、カレンダーアプリと発送日時のリンク、SNS での配送の事前通知などを行う。

取組
30

東西の移動だけでなく南北移動も
省エネで移動できる選択肢を増やす



取組の内容

区内の南北方向の交通を支えている環七・環八通りに、環境負荷が少なく使いやすい交通手段を整備するとともに、交通情報の提供を十分に行うことにより、環境負荷の少ない南北方向の移動手段を無理なく選択できるように促す。

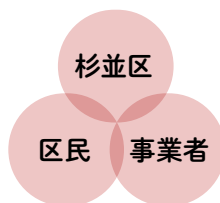
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 区内の南北の交通を便利にするために、南北の交通手段の整備が必要。
- ▶ すぎ丸などをはじめとするバスは便利であるが、EV（電気自動車）のすぎ丸はまだ1台しかない状況である。
- ▶ 南北をつなぐエイトライナー（環状鉄道計画）の早期実現を加速化させることができる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

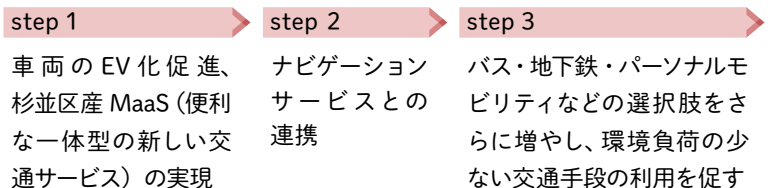
情報発信とりまとめ、交通手段検討、車両EV化支援、国、都、近隣の区、近隣県への連携の働きかけ



より良い交通手段の
選択

交通情報の提供、
車両のEV化推進

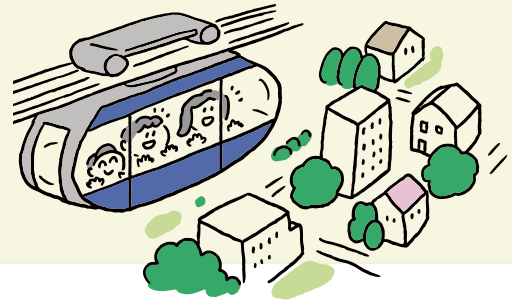
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 定時性を確保できる公共交通で南北を結ぶことにより鉄道などの基幹公共交通の利用を促し、環境負荷を減らす。
- ・ (LRT / 地下鉄 / BRT などの利用時に) 駐輪場の満車状況やナビゲーションサービスと連携し、車両位置情報などを活用したりリアルタイムな交通情報の提供を実現する。
- ・ 杉並区産 MaaS (便利な一体型の新しい交通サービス) を利用する際に環境負荷の少ない交通手段の利用を促す。
- ・ バス買替え時にEV化支援をするなど無理なく環境負荷を減らす。

取組 31 区内の移動を快適に！ 南北を楽しく空でつなぐ



取組の内容

空中にロープウェイやチューブ状の空中歩道といった新しい交通手段を整備する。自動車の利用による利便性よりも、移動手段そのものが魅力的になることで、自動車の利用の減少につなげる。さらに、杉並区内の緑化が推進されると、空から緑豊かな景観を楽しむことができるようになる。

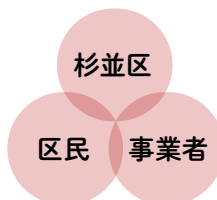
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 杉並区内の南北移動の主要導線となる環七・環八通りは、自動車で移動しようとするとう交通渋滞から移動に時間がかかっており、余分な排出ガスを出している。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

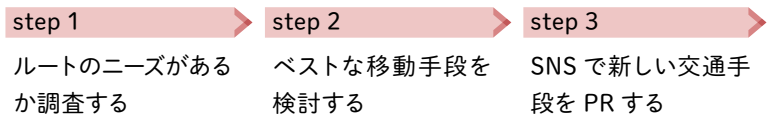
検討体制を整え、整備する



必要なルートを
考える

鉄道会社は、急行
の停車する駅と接
続できるようにする

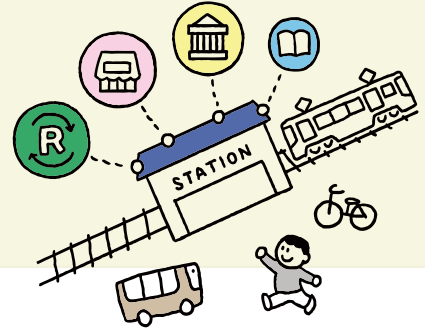
実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 上から緑も見え、景色も楽しみながら、ロープウェイなどで空を移動できるようにする。
- ・ 環七・環八通りの上にチューブ状歩道を整備する。
- ・ 自動車の便利を超える魅力的な交通手段を利用できるようにする。

取組
32 交通結節点を人にやさしく
付加価値の高い場にする



取組の内容

駅周辺などの交通結節点に便利な機能を集め、歩行者空間を歩きやすく・歩きたくなるように整備することや公共交通の乗り換えをしやすいすることにより、人と環境にやさしい付加価値の高い場にする。

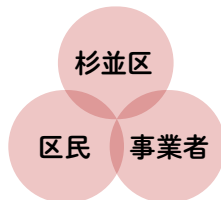
取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

- ▶ 駅によって、便利な駅と不便な駅のばらつきがある。
- ▶ 駅によって期待される役割の違いがあると思われる。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

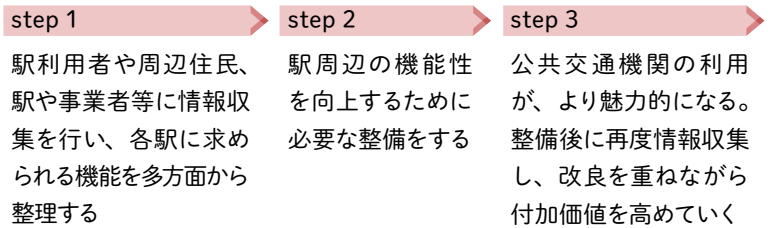
計画づくり、アンケート、
公共サービスの充実



乗り換え情報な
どの積極的な
利用

鉄道事業者等 (JR、
京王、西武、メトロ)
の計画への参加・
協力

実現に向けたステップ



議論したアイデア

- ・ 駅やエキナカに文化施設や商業施設をつくり、サイクルポートなどを配置して利便性を高めることにより、自家用車等ではなく公共交通の利用促進と維持を図る。
- ・ アンケートをもとに計画することにより、ニーズとまちのあり方を総合的に考えてみんなが使いやすい／使いたくなる整備・利用を進める。
- ・ 人が多く集まる駅周辺を居心地が良い空間にするため、天候に左右されず歩きやすくしたり、回遊性を高めたりするハード面の整備をする。

取組

33

四季折々の緑が楽しめる 安全安心な移動空間をつくる



取組の内容

推したくなるような四季折々の景色を楽しむことができ、明かりを増やすなど安全安心な通行や活用ができるような道を整備・運用する。これにより、歩道、緑道、川沿い、旧水路などを、緑豊かな憩いのある楽しく安全安心な空間にする。

取組の意義は？ / なぜ杉並区に必要なの？

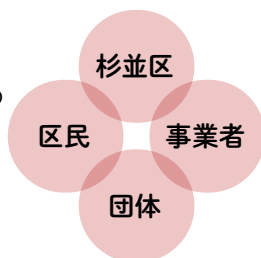
- ▶ 杉並区はすでに適度な緑化が進んでいる。
- ▶ 川沿いはもっと活用できる。
- ▶ 高齢者が増える中での視点も必要である。

進め方のイメージ

実現に関わるべき主体

川沿い・街路などの整備、ボランティア団体を支援、規制緩和などを含め、道路のあり方を検討

玄関照明の
設置



安全安心な
デザインの
提案
休めるカフェ
などの運営

ボランティアによる緑地の
管理、歩きたくなるモデル
ルートの提案

実現に向けたステップ

step 1

沿道住宅の玄関照明の設置、
人感センサー付き街路灯の導
入、モデルルートの設定

step 2

歩きたくなるデザインづくり、
沿道で休める空間の設置（ベン
チ、カフェ等）

議論したアイデア

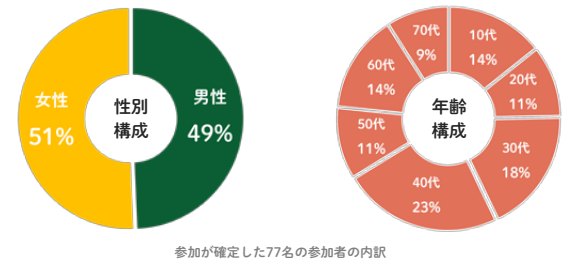
- ・ 歩道周辺の適度な緑化と管理を進めるほか、一緒に歩いたり、ベンチを設置したりするなど、高齢者にも歩きたくなるきっかけをつくる。
- ・ 玄関先の明かりも利用して、歩道を安心・安全にし、歩行者が気軽に休める公園などの公共空間を維持・整備することにより、徒歩へのハードルを下げ、徒歩移動を促す。
- ・ 歩くことにお得感を感じてもらい、さらに雨の日も歩きたくなるような仕掛けをつくる。

杉並区気候区民会議の歩み

参加者はどのように選ばれたの？



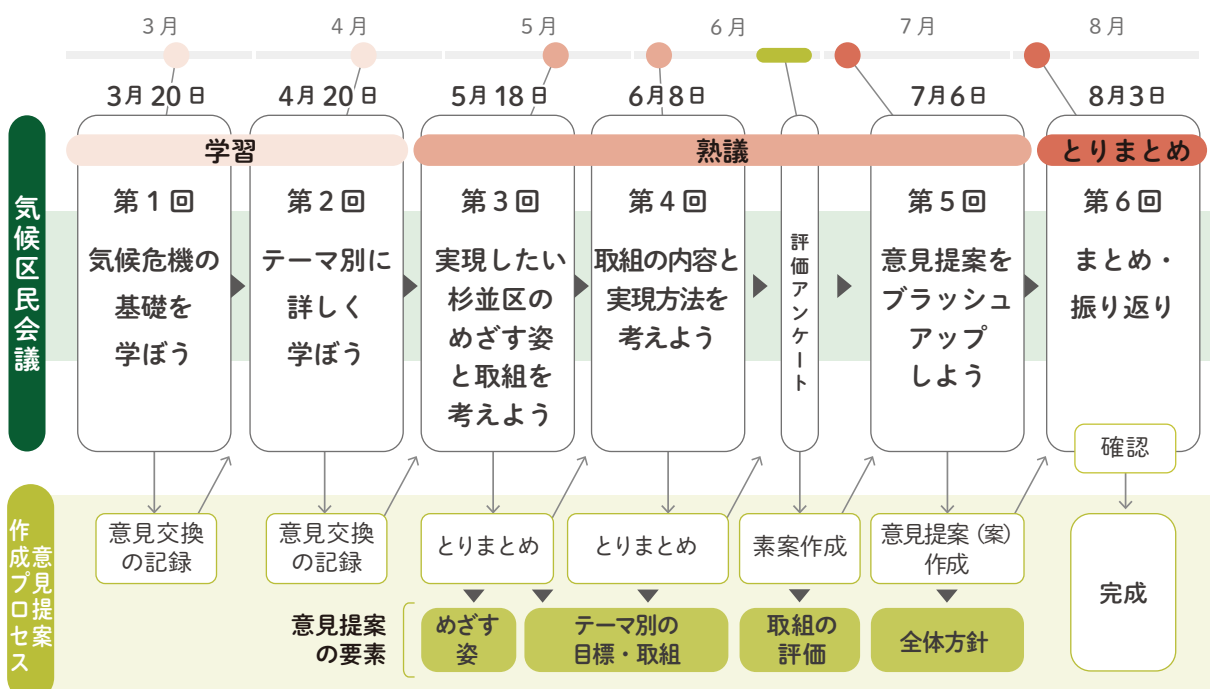
参加者の内訳



杉並区民約 57 万人の中から、16 歳以上の区民 5,000 名を無作為に抽出し、参加の希望があった 199 名からさらに年齢層や性別、住所について区の人口統計を参考に選出することで、80 名の参加者を決定（辞退者 3 名）。

杉並区気候区民会議の開催と意見提案の作成プロセス

学習から熟議、意見提案のとりまとめまでを3つのステップで進行しました。前半の学習期間では気候変動の現状や各テーマについて集中的に学び、後半の熟議で意見提案に向けて議論しました。



各回の様子

1



気候変動の基礎・テーマ別に詳しく学ぶ

専門家から気候変動の基礎情報や、気候区民会議の役割・重要性について学びました。各テーマについては、学識者、事業者、現場で活動する方、杉並区など、それぞれの分野で活躍する様々な立場の方から、パネルディスカッション形式で多角的に学びました。

2



3



めざす姿と取組のアイデア出し

気候変動対策が進んだ杉並区のめざす姿を考え、全体でシール投票を実施。4つのテーマに関連する取組アイデアをたくさん出し合いました。

4



目標と取組の検討

第4回からは、テーマ別のグループに分かれて議論を行い、「めざす姿」を実現するために達成すべき目標や取組を考えました。

5



意見提案のブラッシュアップ

他のグループの取組に意見するポスターセッションと、テーマ別のグループワークを通じて、取組をさらにブラッシュアップしていきました。

6



まとめ・振り返り

各グループで意見提案を最終確認して、全体発表。気候区民会議全体の振り返り後、区長に意見提案を提出しました。



杉並区気候区民会議を通じて得た気づき

杉並区気候区民会議での情報提供や意見交換を通じて、個人としてどんなことができるか、参加して得た気づきなどの一部をテーマごとにご紹介します。

総論



気候変動が思っていた以上に
危機的状況だった

システムの大転換が必要。
技術革新や法律の改正に期待

気候変動の現状と、
深刻さ・大変さを理解できた。
危機感・不安を感じた

個人の行動・自分で
何ができるかを
考えることも大切

解決に向けた取組が、
他の地域に悪影響を及ぼす場合も
あることについて考えさせられた

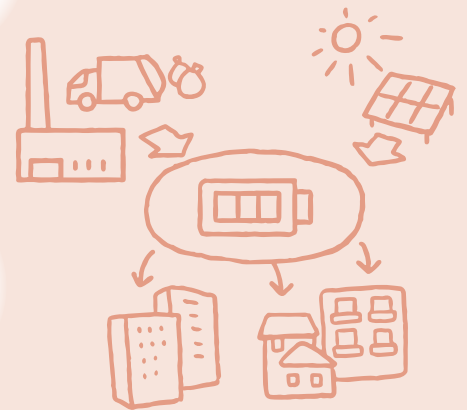
全員に関わる問題なので、
様々な立場・レベルの主体が連携して、
みんなで取り組むことが必要

まずは知ること・学ぶことと、
どのように発信していくかが大事

若者から学ぶことで、
世代の違いによる
気づきがあった

将来世代への負担や将来世代の
ためにできることを考えさせられた

エネルギー



数値の見える化は大切だと
思うため、エコワットメーターを
活用してみたい

家庭の経済的メリットが大事。
“モト”が取れるならやりたい

太陽光パネルやEVの充電
スポットなど、様々な省エネ対策や
脱炭素化をもっと理解し、
できることは取り組みたい

賃貸物件での省エネ性能向上を
推進してほしい

家電の買い換えなども良いが、
製造にもエネルギーを要するため、
全体としての視点も大切

取り組む人だけが負担にならない
ような制度化ができるとうい

様々な補助金について
もう少し周知した方がよい

循環型社会

杉並区の一人当たりのごみの排出量が23区で最も少ないことに驚いた

モノが循環する仕組みづくりがすごく大事

そもそも食べ残さないことが重要

事業者が多重容器包装等を減らしてくれると良い

二酸化炭素排出の原因が生活と身近なことがわかった

物を買う前に必要性を考慮することが大切。買わない経済は事業者の利益にどうつなげるか

日本人の美德や道徳心に訴えるよりも楽しさやワクワクできるほうが行動変容につながると思う



みどり



23区の区名でみどりを連想する名前は杉並区だけ。みどりが多いことの良さを伸ばしたい

みどりと生物多様性を意識していきたい

プランターや雨庭をつくって、自宅でできるグリーンインフラを実施してみたい

脱炭素は難しそうだが“みどり”なら親しみをもって取り組めそう

屋敷林などの住宅地のみどりを残したい、大切にしたい

川が多いので河川の取組は大事

落ち葉の感謝祭はとてもいい取組!

公共空間だけでなく、民地でも緑化の意識が高まってほしい

歩いて楽しい環境づくりのために、みどりや景観を大切にしてほしい

そもそもムダな移動が少ない社会にしたい

交通

エコな車に買い替えることも良いが、車より自転車が良いと思った

電動自転車・電気自動車を増やす時には、起きる課題も考えたい

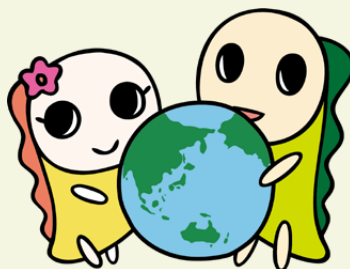
自転車を乗るのは怖い反面、脱炭素への貢献手段として新しい気づきがあった

公共交通機関を活用して、車のあり方を変えたい

グリーンスローモビリティに乗ってみたい

自転車利用を安全に推進する上で、レーンの整備や意識改革が必要





杉並区気候区民会議

ゼロカーボンシティ杉並の実現に向けた意見提案

2024年8月

発行

杉並区 環境部 環境課

〒166-8570

東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号

電話：03-3312-2111（代表）

杉並区のホームページで
ご覧になれます。

<https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

06-0049

